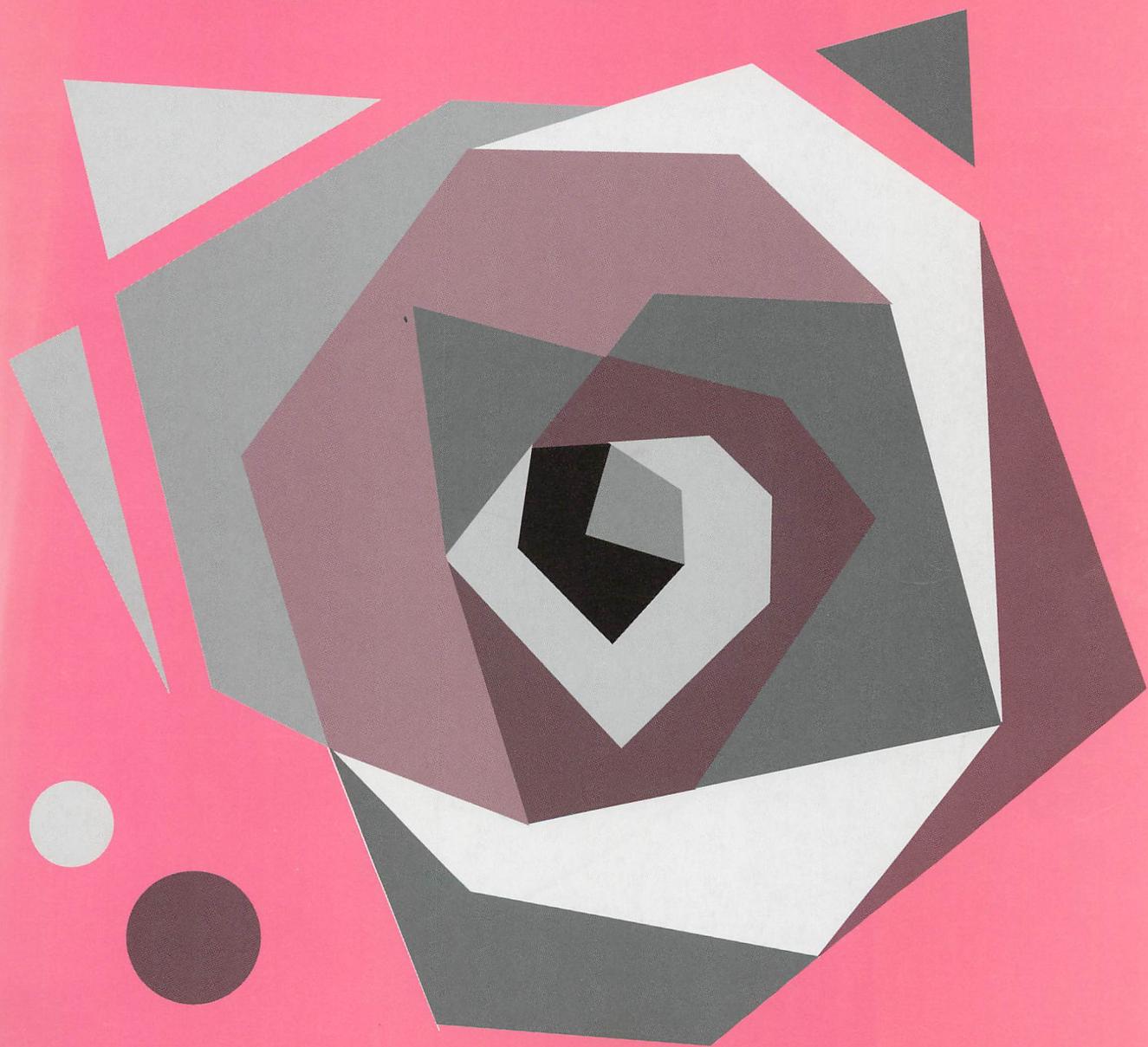




高文連

第12号



山口県高等学校文化連盟

も く じ

あいさつ	1
山口県高等学校文化連盟各部門の報告	2
第22回山口県高等学校総合文化祭の記録	
総合開会式	14
(音楽関係4部門)	
器楽・管弦楽部門	18
合唱部門	19
吹奏楽部門	20
マーチングバンド・バトントワリング部門	21
(日本音楽・吟詠剣詩舞部門)	22
(展示関係部門)	23
美術・工芸部門	27
書道部門	28
写真部門	29
囲碁部門	31
演劇部門	32
放送部門	33
将棋部門	34
第24回全国高等学校総合文化祭の記録	35
器楽・管弦楽部門	37
合唱部門	38
吹奏楽部門	39
マーチングバンド・バトントワリング部門	40
日本音楽部門	42
美術・工芸部門	43
書道部門	44
写真部門	46
囲碁部門	47
放送部門	48
将棋部門	49
自主事業	50
参考資料	
第15回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募一覧	56
(部門別応募状況、入賞作品数一覧、山口県受賞作品一覧)	57
平成12年度山口県高等学校文化連盟<事業報告・会計決算書>	59
平成13年度山口県高等学校文化連盟<事業計画・会計予算書>	61
山口県高等学校文化連盟規約・諸規定(会計、事務局、表彰、旅費支給基準)	63
平成12・13年度山口県高等学校文化連盟役員一覧	68
全国高文連の歌	70

高文連

第 12 号

ごあいさつ



山口県高等学校文化連盟

会長 西田 昇

高校生の芸術・文化の祭典である第22回山口県高等学校総合文化祭は、「はばたけ 創造 2000年の空へ」をテーマに掲げ、防府市における総合開会式を皮切りに、県内各地で活発に展開されました。芸術・文化の祭典は12部門で開催され延べ273校3、111名の高校生が参加しました。

歴史的にも大きな節目となる西暦2000年、各部門ともこれまで以上に高校生の主体性が前面に出るとともに、未来への大きな希望と若さあふれる豊かな感性と確かな知性を感じ取ることができた大会でした。

また、第24回全国高等学校総合文化祭は17の開催部門と5の共催部門で「空翔る 創造の翼 富士を越え」のテーマのもと静岡県で開催されました。本県からは延べ34校267名の高校生が参加し、日頃の成果を各部門で思う存分発表し、全国の高校生の作品や演技・演奏を十分に鑑賞するとともに交流の輪を広げてきました。

御案内のように、平成10年3月には、21世紀初頭の社会を展望し今後の山口県教育が目指すべき方向が明らかにされた「山口県教育ビジョン」が発表されました。基本目標は「夢と知恵を育む教育の推進」であり、その目標の実現を図る柱の一つに「個性豊かな地域文化創造と継承」があります。ここでは、文化活動に対する関心が高まるなかで歴史や伝統を育み豊かな文化を培ってきた土壌を礎に個性と魅力ある文化を創造し、暮らしの中に文化を定着していくことの大切さが述べられています。

山口県高等学校文化連盟の果たす役割は大きなものがあり、新しい世紀を豊かな表現力と創造性で切り開いていく高校生の芸術文化活動を支える組織として、今後ますますの躍進が期待されます。

終わりに、この一年間終始温かい御指導を賜りました山口県教育委員会に深甚なる謝意を表しますとともに、山口県高等学校文化連盟の活動に御指導、御協力をいただきました関係各位に心からお礼を申し上げ発刊の御挨拶といたします。

山口県高等学校文化連盟 各部門の報告

器楽・管弦楽部門

理事長 松永忠雄
(下関南高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度、次のような事業を行ないました。

1. 平成12年度第22回山口県高等学校総合文化祭総合開会式において慶祝演奏として合唱部門との合同演奏

- ・ 6月16日(金)防府市公会堂
- ・ 曲目「大地讃頌」
「ハレルヤコーラス」
- ・ 指揮／藤元 徹(防府西高校)
- ・ 参加出演／器楽・管弦楽部門 5校 95名

2. 平成12年度第22回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

- ・ 6月16日(金)、17日(土)、18日(日)
- ・ 防府市公会堂
- ・ 参加各校による弦楽、ギター、マンドリン、管弦楽の演奏
- ・ 参加出演／7校271名

3. 第24回全国高等学校総合文化祭静岡大会

- ・ 8月9日(水)静岡市民文化会館
- ・ 山口県代表 山口中央高等学校
- ・ 曲目／歌劇「ウインザーの陽気な女房たち」序曲 ほか

4. 平成12年度山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会

- ・ 12月18日(月)
下関南高等学校校長室
部会長以下出席者8名

第20回器楽・管弦楽スプリングコンサート(岩国大会)、県総文、全総文、高文連表彰、役員改選などについて協議

5. 第20回山口県高等学校器楽・管弦楽スプリングコンサート

- ・ 3月28日(水) シンフォニア岩国
- ・ 参加7校によるギター・マンドリン、管弦楽などの演奏

※平成12年度全国学校合奏コンクール

- ・ 中国大会 最優秀賞受賞
- ・ 全国大会 会長奨励賞受賞

下関南高等学校

(曲目：リスト作曲 交響詩「レ・プレリュード」)



合唱部門

理事長 **有富美子**
(萩高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟、合唱部門に関して行なわれた今年度の行事を報告いたします。

1. 山口県高等学校合唱講習会

(開幕式典に備えての講習会)・5月28日(日)

- ・講師：矢田正一(合唱指揮者)
- ・内容：発声と曲作り
- ・曲目：“オラトリオ《メサイア》より「ハレルヤ・コーラス」／“カンタータ《土の歌》より「大地讃頌」”
- ・場所：山口県教育会館大ホール
- ・参加者：12校 204名 発声を中心としたとても分かりやすい熱心なご指導をいただきました。今回得たものを元に平素の活動がより活発になるよう毎日の練習を充実させたいものです。

2. 平成12年度第22回山口県高等学校総合文化祭開幕式典において慶祝演奏

- ・6月18日(金)
- ・山口県高等学校管弦楽団との合同演奏
- ・曲目：“オラトリオ《メサイア》より「ハレルヤ・コーラス」”／“カンタータ《土の歌》より「大地讃頌」”
- ・山口県高等学校合唱団／12校 253名
今年、男子部員の減少に伴い、演奏曲を《タンホイザー》より「大行進曲」から、《メサイア》より「ハレルヤ・コーラス」に変更しました。日ごろ小人数で活動している生徒達にとって、この大合唱は素晴らしい経験となりました。

3. 平成12年度第22回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

- ・6月16日(金)、17日(土)、18日(日)
- ・防府市公会堂
- ・合唱部門出演者／11校 239名

4. 第24回全国高等学校総合文化祭

- ・8月6日(日)・アクトシティ浜松大ホール
- ・山口県代表 防府高等学校合唱部
- ・曲目／「さようなら」「未来」

演奏の後、講師の方よりシビアな講評があり、今後の活動の良きアドバイスになったようです。

5. 平成12年度山口県高等学校文化連盟合唱部会

- ・12月8日(金)・萩高等学校会議室
- ・出席者／部会長以下11名
- ・議題／県総文、全総文、高文連表彰等について

※各種コンクール

- ・AJCL(全日本合唱連盟)コンクール
県大会 8月8日(日)萩市民館大ホール
中国大会 9月23日(土)広島市
- ・NHK全国学校音楽コンクール
県大会 8月8日(火)徳山市
中国大会 9月17日(日)広島市



▲第22回山口県高等学校総合文化祭総開会式(防府市公会堂)

吹奏楽部門

理事長 和田道明
(光丘高等学校教諭)

平成12年度山口県高等学校文化連盟吹奏楽部門の活動状況を報告いたします。

1. 県総文総合開会式

総合開会式は、『はばたけ 創造 2000年の空へ』をテーマに、防府西高等学校主管のもと、6月16日(金)防府市公会堂で盛大に開催されました。

吹奏楽部門は、防府地区高等学校合同吹奏楽団を編成し、田中 睦・下濃正浩先生指揮のもとで、式典並びに慶祝演奏に参加しました。

[式典] “ファンファーレ” “高文連の歌”
[慶祝演奏] “フラッシング・ウインズ”
“テキーラ”

2. 県総文音楽4部門発表会・連合音楽会

総合開会式に引き続いて6月16日(金)から18日(日)の3日間、音楽4部門発表会・連合音楽会が同じく防府市公会堂で開催されました。吹奏楽部門では51校1,647名の生徒達が参加し、すばらしい演奏を披露してくれました。

3. 全総文静岡大会

全総文静岡大会は、8月7日(月)から8日(日)の2日間、静岡県コンベンションアーツセンターで開催されました。

山口県代表として西京高等学校吹奏楽部47名(檜原 弘先生指揮)が2日目に出演し、バレエ音楽「青銅の騎士」よりと「コバカバーナ」を演奏披露しました。迫力ある美しいサウンドで聴衆を魅了しました。

4. 高文連吹奏楽部会総会

本年度吹奏楽部会総会を1月15日(月)光丘高等学校で開催いたしました。県下50名の吹奏楽指導担当者が出席し、本年度事業報告や来年

度事業計画、県総文の開催日程、全総文福岡大会への参加推薦等の多くの協議事項に対して活発な意見交換がなされました。

5. 高文連吹奏楽部会研修会

部会総会終了後、部会研修会を開催いたしました。

日本の吹奏楽界で多大の功績や実績を積みまれ、吹奏楽指導者としてトップの座に君臨しておられる、尚美学園講師・日本バンドクリニック委員会委員の加養浩幸先生を昨年に引き続きお招きしました。本年度は「バンド運営法」と題した講演をしていただきました。

当日は、最悪の天候に加えて加養先生の到着も遅れ、開始時間が予定より1時間30分遅れの中研修会を行いました。時間は短くなりましたが、大変貴重な運営上のアイデアをたくさん教えていただくことができましたし、一言一言の言葉の重みを感じました。熱く語られた講演会は、あっというまに終わってしまうほどでした。講習会で学んだことを、是非日頃の活動に生かしていきたいと思います。



マーチングバンド・バトントワリング部門

理事長 花村 慈 照
(宇部女子高等学校教諭)

平成12年度山口県高文連マーチングバンド・バトントワリング部門の主な活動状況を報告いたします。

1. 第22回山口県高等学校

総合文化祭総合開会式

総合開会式は、県立防府西高等学校の主管のもとに、6月16日(金)防府市公会堂で盛大に開催されました。慶祝演奏演技には、県立佐波高等学校のプラスバンドの演奏のもと三田尻女子高等学校のバトントワリングの演技で『ミレニアムマーチ・聖者の行進』『イスパニア・カーニ』の2曲を披露しました。

2. 県総文祭音楽4部門発表会・連合音楽会

総合開会式に引き続き6月18日(日)まで同会場で開催されました。参加校は5校でステージ上でステージドリルを披露しました。参加校は少なかったが、すばらしい演奏・演技を披露し会場を魅了しました。

3. 第24回全国高等学校総合文化祭(静岡大会)

マーチングバンド・バトントワリング部門は、8月5日(土)パレード、6日(日)部門発表会が、静岡県で実施されました。5日のパレード部門は静岡市役所前から大和証券静岡支店前までの1.5kmで行なわれ、また部門発表会は浜松市の浜松アリーナで開催されました。

各都道府県からパレード部門に61校。部門発表会には62校の参加があり、山口県からはマーチングバンドに山口県鴻城高等学校が、バトントワリングには本年度も山口県合同チームとして宇部女子高等学校・三田尻女子高等学校の2校が参加し、大変好評でした。

4. その他の活動

平素は地元で行われる行事に参加したり、マーチングバンド・バトントワリング連盟主催のコンテストに参加し、全国大会へと進んでおります。

5. 高文連マーチングバンド・バトントワリング部門総会

本年度は3月15日(水)宇部女子高等学校で開催しました。11名の指導担当者が出席され、本年度の事業計画の反省と来年度の事業計画、全総文祭(福岡大会)の参加について、また県総文祭慶祝演奏演技の出場校の決定等について活発な意見が出されました。



日本音楽部門

理事長 伊藤由紀子
(防府高等学校教諭)

平成12年度山口県高文連日本音楽部門の主な活動状況を報告いたします。

1. 第22回山口県高等学校総合文化祭

総合開会式 慶祝演奏

本年度総合開会式は、県立防府西高等学校主管のもとに6月16日(金)防府市の「防府市公会堂」で盛大に開催されました。

慶祝演奏は、防府高等学校による「月下美人」「荒城の月」の2曲を演奏しました。日本の伝統的音楽の良さが発揮されている曲、また誰もが知っている曲と優雅さと懐かしさを感じさせる演奏でした。一般の高校生はこのような機会がなければ、日本の伝統的な音楽に触れることはほとんどないということからすると、とても貴重な経験であったことと思います。

2. 第22回県総文祭日本音楽

・吟詠剣詩舞部門 発表大会

本年度は山口県立岩国商業高等学校主管のもとに、6月18日(日)シンフォニア岩国を会場に開催されました。箏曲を中心にした日本音楽部門ですが、箏曲は17校、吟詠剣詩舞部門としては吟詠1校、郷土芸能として和太鼓1校、謡曲仕舞1校、それに本年は新たに民謡1校が加わり日本伝統文化芸能の発表の場となりました。

箏曲は日本の伝統音楽として最近見直されて来てはおりますが、各学校とも生徒数の減少に伴って部員の確保が難しい状況でもあります。しかし、生徒は熱心に演奏し、日頃の練習の成果を発表していました。また、吟詠・剣詩舞部門は引き続き休部中ですが本年も昨年同様に中村女子高等学校1校の参加があり、大会を盛り

上げていただきました。一方、日本音楽部門では、郷土芸能も合同で発表を行っております。和太鼓に今年は民謡が加わり早鞆高等学校の平家太鼓、佐波高等学校の民謡の発表となり、元気で勇壮な太鼓に美しい民謡の声が会場に響きわたりました。そして、昨年引き続き謡曲・仕舞の発表があり、伝統文化の趣に会場の生徒と一緒に浸りました。

このように日本音楽部門は他の日本伝統文化芸能の発表を含み、幅の広い文化芸能としての発表の場です。箏曲・吟詠・和太鼓・民謡・謡曲・仕舞それぞれのすばらしい演奏、演技が披露されました。

3. 第24回全国高等学校総合文化祭「静岡大会」

8月6日(日)から8月7日(月)まで沼津市民センターで開催された全国大会には、中村女子高等学校が出場しました。

箏曲の全国大会のレベルは高いということですが、日頃の練習の成果を十分に発揮しました。また、他校のすばらしい演奏を聞いて、よい刺激となり、今後の活動をさらに大きく飛躍させていく原動力となると思います。



美術・工芸部門

理事長 平田博英
(岩国工業高等学校教諭)

平成12年度美術・工芸部門の主な活動の報告と、感想を述べます。

1. 県高等学校総合文化祭総合開会式慶祝展示

防府市公会堂の1階ホワイエに設けられた展示パネルは、山防地区の高等学校や聾学校高等部で腕を振るっている美術・工芸部員達の作品で賑わっていました。作品の集まりが悪く、主管校に負担がいった昨年度の反省と、関係する各美術・工芸部の積極的な協力のおかげで、本年度は10校25作品が集まり、訪れた人々に、美術・工芸部の存在をしっかりと印象づけてくれました。

美術・工芸部門の場合、全国高総文祭に出品する作品は、会期中には既に搬出されており、残念ながら毎回慶祝展示ではお目にかけることはできません。しかし、展示された作品はどれも力作で、現時点での山口県の水準を伺い知るには十分だと思われました。「慶祝」という名目ではありますが、作品展として堂々たるものでした。

2. 全国高等学校総合文化祭<静岡大会>

絵画3点、デザイン、彫刻各1点の作品が、静岡県立美術館の会場に、全国から出品された350点の作品と共に展示されました。今回の静岡大会では、作品をそのテーマ別にまとめ、生徒作品に混じって美術館所蔵の作品も一部展示するといった、出品者にとってはこの上ない喜びを感じさせる、心憎い演出がなされていました。別項の全国総文祭の記録に、本県からの出品者の声が掲載されていますので、そちらもご覧ください。今、全国の美術・工芸部は、「絵画」「デザイン・彫刻」「工芸」という作品区分から「平面」「立体」という区分に変わる動向にあります。

す。立体作品に対しては、全国的な水準から大きく水をあけられてしまっている山口県が、新しい区分に十分対応するためにも、今後取り組む課題は大きいものがあります。

3. 県総合文化祭展示部門

『第22回山口県高総文祭の記録』を参考に。

4. 美術・工芸部門会議

昨年度は部門会議を岩国市で開催しましたが、地理的な不便さが災いしてか、参加者20名という状況でした。県内美術・工芸部顧問の先生方が集まって、県全体のこれからの取り組みについて、具体的に話し合える唯一の機会ですが、全国的流れに取り残されないためにも、この会の重要性は十分理解していただいていると思うのですが、なかなか集まれない。

本年度は、高文連事務局でもある山口中央高等学校に無理をきいていただき、地理的な不便さを解消した形で設けましたが、参加者23名という数字は非常に寂しい思いがします。会そのものは、美術・工芸部門をいかに活性化するかで、多くの意見がだされました。「立体作品への取り組み」「全国総文祭への出品機会の均等について」「生徒研修費の有効的な使い方」等々、それぞれ難しい問題を抱えながらも、現状のまま立ち止まることはできないという思いは同じでした。ひとつひとつを具体化させるためにも、県内の部顧問がひとりでも多く参加し、



一緒に考えて部門を運営していく姿勢が不可欠です。

書道部門

理事長 古屋元子
(山口高等学校教諭)

平成12年度山口県高文連書道部門の活動状況を報告いたします。

1. 県高等学校総合文化祭総合開会式慶祝展示

総合開会式の慶祝展示はステージ発表の華やかさはなくとも、来場者に高校文化部の日頃の活動の様子を見てもらう機会です。今年度は主管校防府西高の先生方に、防府市公会堂入口ホールに素晴らしい展示の設営をして頂きました。書道部門はここ数年、主管校周辺地区の生徒作品を中心に、又出品校には出来るだけ新作をとお願いしています。今回も山防地区の8校より力作9点が並びました。

2. 全国高等学校総合文化祭<静岡大会>

浜松市で開催された書道部門は開会式、交流会、好評会と地元生徒を前面に出した運営が大変印象に残りました。全国作品展示会場は「クリエート浜松」(8/5~8/9)例年通り北海道から順に約280点が展示されましたが、今回は特に小筆で書いた細字の労作が目立ちました。山口県の4作品(徳山、防府、山口、高水)は、候補に選ばれた昨年秋以降の書き込みと鍛練のあとが窺え、技術的にも高校生らしい清新さに於いても、県代表として立派に仕上がっていました。

代表者会議では特に、見直しをされた各都道府県の出品点数基準と全総文出品作の選抜方法の問題点について多くの時間を割き協議を行いました。

3. 県高総文祭展示部門発表会

第22回県総文祭の記録に掲載。

4. 生徒研修会(第2回)

夏休み最初の土曜日の7月22日、県セミナーパ

ーク研修室に県下7校より顧問、生徒22名が集いまし

た。昨年に比べ研修室が広くなったにも拘わらず参加者減が残念。午前条幅作品制作、午後漢字仮名交じり書の学習と続き、最後に昨年の反省をふまえて鑑賞会、作品交換の時間を設けました。自分の書き上げた作品を発表し、互いの作品を鑑賞したこの最後の時間に、生徒は一番生き生きした表情を見せてくれました。時期、会場、研修内容等課題は多くありますが、今後とも各校書道部の生徒が一同に会し、交流を通して互いの向上を目指す会にしたいと思います。

5. 山口県教員書作展

厚狭高古屋先生の担当で宇部市文化会館で開催(8/10~8/13)。出品者28名、総出品数48点。各自1点は漢字仮名交じり書(学習指導要領の改訂で必ず扱う分野)を加える規定のため、自分の得意分野の制作の他に頭を悩ました作品の発表でした。この書作展は山口県書道教員が纏まって互いの研鑽の場とする意義を忘れずに回を重ねていきたいと思っています。

6. 書道部門会議

12月5日、中村女子高校に書道部顧問他14名が集まり、本年度の事業報告とその反省、問題点を取り上げながら次年度の事業計画について協議を行いました。最後に来年度からの理事長を防府高校の有富由美先生にお願いすることが決まりました。



写真部門

理事長 **大濱進治**
(宇部工業高等学校教諭)

平成12年度山口県高文連写真部門の主な活動は次の3つの事業でした。

1. 山口県総合文化祭開会式慶祝展示

今年は、「防府市公会堂」を会場としてすばらしい式典が行われました。今回は、慶祝展示作品を鑑賞する一般のお客様が多くパンフレットが不足しがちだったようです。作品を展示した生徒にとっては、とても光栄なことになりました。

写真部は、全国大会（静岡大会）に出展する下記の5点を中心に展示しました。

宇部工業高校 藤井昭光 「鉄動員」

宇部工業高校 鈴川俊介 「勝ちに行け!」

宇部工業高校 西村 浩・鈴川俊介

「警告 (WARNING)」

下関西高校 蒼下和敬 「夏のわすれもの」

小野田高校 岡真樹子 「うまく撮れたよ」

2. 全国総合文化祭静岡大会

写真部門は、静岡市民文化会館で開催されました。静岡市が徳川家康ゆかりの地ということもあり、「静岡葵博覧会」が開催されていました。この「葵博」を会場に撮影会が行われました。撮影会は、班編成され講師の先生方の指導が行き届くように配慮されたものでした。モデルは、地元の女子生徒が着物姿になり頑張ってくれました。暑い中での撮影会でしたが、葵博覧会場の城壁をうまく使い色々工夫されていて、生徒も良い雰囲気の中張り切ってシャッターを切っていました。作品が出来上がるのが楽しみです。

今回の作品群を見て感じたことは、昨年同様一工夫、二工夫した作品が多くありました。これからの作品づくりはいろいろな小説を読み心

の畑を耕して臨むことが大切のように思いました。人の物まねでなく自分の個性をどれだけ表現できるかが問題でしょう。ここで山口県写真部が特に見習わなければならないと思うことを次に挙げておきます。

- ・仕上げが丁寧である（特に組写真の仕上げがすっきりしていて写真が見やすい。）
- ・写真と題名がしっかりなじんでいる。
- ・焼き付けがうまい。

この3点を、一つの目標としていきたいものです。

今年の理事長会議で話題になっていた事は、組写真のサイズについてのことでした。平成13年度の開催県である福岡県の写真展示会場が、とても狭いということで、組写真も単写真と同じ全紙サイズにまとめてほしいという申し出があり、福岡県大会に限って組写真も全紙サイズにまとめることに決定しました。いろいろな意見が出ましたが、会場面積の問題では仕方がないということでした。

3. 県総合文化祭展示部門

本誌第22回山口県高総文祭の記録に掲載します。



囲碁部門

理事長 **安藤 公隆**
(下関工業高等学校教諭)

囲碁は子供から大人までいっしょに楽しめるゲームです。日本古来の精神スポーツです。中国ではスポーツ省の中に位置づけられています。囲碁には、芸術、哲学があり、創造性があります。囲碁を通しての「先を読む」こと、「考える」こと、「自己との戦いに克ち決断する」ことは人生の勉強に通じるものがあります。また、頭を鍛えることにより集中力が増し、学力も向上します。いろいろな意味で囲碁は役に立ちます。本年度の囲碁部門大会は昨年より6名増85名の参加があり、更に盛んになって行くことを期待します。

つ切り2枚を掲げました。

2. 第22回県高総文祭囲碁部門第12回大会

兼第25回全国高校総文祭囲碁部門第14回大会県予選は10月29日(日)に下関工業高校で開催され、参加人数は男女合わせて85名でした。全国大会の選抜と段級位認定を兼ねて4回の対局を行いました。

個人戦男子1名、女子1名、団体戦の山口県チーム男子2名、女子1名の計5名は、平成13年8月6日(月)～7日(火)に福岡県で開催される全国高校総文祭に出場します。

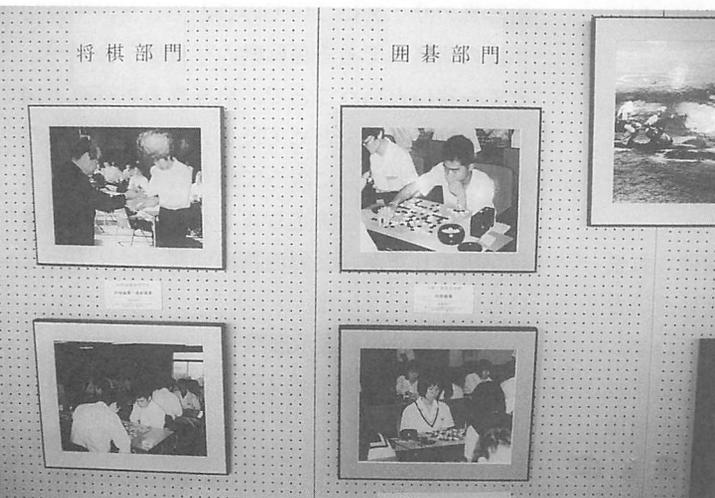
3. 第24回全国高校総文祭囲碁部門第13回大会

平成12年8月7日(月)～8日(火)、静岡県静岡市グランシップにて開催されました。山口県代表は前年度の県代表選手が出場しました。皆よく健闘しました。団体戦は全国30位、男子個人戦は6位、女子個人戦は20位でした。個人戦の小野君は後一歩のところまで入賞を逃しました。

4. 県高文連囲碁部門研修会

平成13年2月11日(日)、山口市の山口南総合センターで開催されました。

渡辺堅一棋士(日本棋院六段)による全国大会出場者及び有段者クラスの者への対局指導、また教員による指導基等を行いました。対局終了後、渡辺プロの適切な助言をいただき、生徒はより高い次元の碁に接し、実に有意義な一日でした。



さて平成12年度の山口県高文連囲碁部門の主な活動は以下の通りです。

1. 山口県高校総合文化祭総合開会式慶祝展示

6月16日(金)～18日(日)まで防府市公会堂で開催されました。囲碁部門の慶祝展示は山形の全国高校総合文化祭大会と下関工業高等学校で行われた山口県大会の対局風景の写真の四

演劇部門

理事長 **三藤 真人**
(厚狭高等学校教諭)

〈平成12年度 県高校演劇講習会〉

6月11日(日)午後、小野田市のサビエル高校でパントマイマー松本ヒロ先生をお招きして開催。身体表現という面では、昨年度の講習会につながるものがあるが、言葉を抑え、体の各部がどれだけ内面を語るか、姿勢や目、表情がいかに大きな役目を持つかを教えられた。100名余の生徒が参加したが、講師の技量に一心に見入ったり、幅広い役柄の変容ぶりにおどろいたりだった。

参加生徒の実演指導もあった。舞台上の演技とは現実そのままで見栄えがない。演じる・体で十分に語ることを訓練したい。

〈地区大会・県大会〉

山口県の各地区の現状は最後に記す加盟校の数の示すとおり、近年加盟の増えてきた周防地区と少数で何とかもちこたえている宇部地区との間に大きい差が生じていること。また周防地区は広域に亘り地区大会の運営の大変さなどあげられる。

本年度の各地区の発表校は総数で35校、各地区とも盛況だった。県大会への出場枠は上演校8校以上で2校となっているが、今年から3校の代表を出す基準はできないかとの話も出てきた。

2学期に入って今年の県大会は例年より早く10月14日～15日に下関市文化会館で開催。創作脚本は少ないものの舞台装置の工夫や演技の面では見るべきものがあった。篠崎先生のご講評では役柄の心情・動きを徹底的に追究し、演じる者がきちんと自分の中にイメージを作ること。心や感情をしっかりと送り出してこそ、観客の心を捕えることができること。また、演技者は観



客が楽しむことを楽しむこと。などなど…。印象に残った。とにかく周到な計画と稽古が必要となる。

〈中国地区高校演劇発表会〉

11月18日(土)19日(日) 倉敷市芸文館

山口県から華陵高校・下関南高校が出場。

各県の代表校の上演はさすがに見ごたえのあるものばかり。創作劇も高校の部活動からの発想を抽象的な精神性豊かなものに高めたもの、外国の歴史の暗部(闇の中で忘れ捨てられそうな所)に光をあてたもの、若い敏感な感覚で子供の世界、社会の様々なものを捕えようとするもの等々、実にバラエティに富んでいた。

会場に集う、上演校や岡山県地元で色々と運営に当たってくれる高校生が、演劇を通じて親しみ合い連帯しあって睦みあっていく姿は美しいものが感じられる。

さて、この倉敷大会で最優秀賞(文部大臣奨励賞)を山口県代表の華陵高校「ぼくんち」が獲得。廣井直子さんの創作脚本も高い評価を得て表彰された。

演じる力がついてきた。観る力もついてきた。創作が認められたのは収穫だが、これからもっと学びたい。

2002年度の中国地区発表会(40回大会)はいよいよ山口県宇部地区の引き受けとなる。

放送部門

理事長 青木幸子
(山口農業高等学校教諭)

1. 県高総文祭総合開会式

本年度は、防府西高等学校主管のもと、防府市公会堂にて県高校総文祭総合開会式が行われました。ステージと客席との一体化をはかるべく、防府西高校の生徒達はMC(司会進行)に、いろいろな工夫をほどこしてくれました。

時間ごとに、本当に細かいタイムスケジュールと、インタビュー、さらに、演出の仕方等、時間をかけて、皆で話し合いを続け、練習を重ねての本番大成功だったようです。指導にあられた先生方も本当に大変だったと思います。一つのイベントが成功する背後に、目に見えない多くの人々の努力があったことを強く感じる総合開会式でした。

2. 全国総文祭・静岡大会

8月8・9日の2日間“ゆたかくん”率いる「富士の国」静岡で全国総文祭が開かれました。静岡といえば「富士」で、開場した日も目の前にそびえたつ富士の威容。しばし、立ち止まり圧倒される私達でした。「未来に伝える声の架け橋」をテーマに、オーディオ、ビデオ、アナウンス、朗読と、バリエーションに富んだ作品のオンパレード。ロゼシアターの立派さもさることながら、司会・進行、さらに機会操作に全てを生徒がとりしきる見事さに、再びボーゼンとすることしきりでした。さすが、放送王国「静岡」ということで、大いに刺激を受けた私達山口軍団は、前日から大いにはりきって練習に練習を重ね、まさか!というくらいたくさん賞をゲットすることができ、やはり私達は、富士の神様に愛されているのだと、静岡と山口の相性の良さに感動することしきりでした。この相性は、来年の九州大会にも続くといいのですが…。

3. 県高校総合文化祭放送部大会

一昨年に引き続き山口農業高校の主管で11月5日ニューメディアプラザ山口で、第7回放送部大会が開かれました。参加校並びに参加作品は年々増加、うれしい悲鳴の役員達。今年の日玉は、なんとといっても朗読部門だったそうで、勝正男アナが「7回目で、最もレベルの高いメンバーのあつまりで本当にびっくりした」とおっしゃたほど。

緊張の個人部門(アナウンス・朗読)が終了すると一気に会場はなごみモードに突入。お昼のランチタイムなどは、NHK全国大会で深まった山口県の絆を確かめるべく、あっちでもこっちでも大騒ぎの声々。日頃鍛えた腹筋運動の効果は、大騒ぎの時でも遺憾なく発揮されるのでした。でも、昼からの番組発表の時は刺激をお互いに受け、来年のNコンでは負けないゾ的なお互いに堅い握手を交して別れていく姿があちこちで見られたのです。高文連の県大会は、いつも「なごみ」がキーワードのようです。

4. 放送部研修会

「再び西澤先生を！」もう引退したはずの3年生からも、そしてOB達からも猛烈コールがあり、西澤先生は、門下生「ぶれさんぼうず」の大ベテラン3名をアシスタントとして再び私達のもとへ、山口に来て下さったのです。今回は、先生に習う上級クラスと、その他の中級初級と分かれて、ベテランのプロの先生方から、みっちり基礎から教えてもらうことができたのです。3年生は放送への道についてのアドヴァイス、プラスTokyoに出てからの指導のアポをとるなど、高文連の活動は、3カ年のみに終わらず、まさに「生涯学習」の様子を見せだしたようです。

将棋部門

理事長 **弘中敏之**
(防府商業高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟に正式加盟して5年目の節目を迎えた本年度は、防府商業高校を事務局として、次の3つの事業を実施しました。

1. 山口県高等学校総合文化祭総合開会式の 慶祝展示

防府商業高校を中心に、対局や表彰風景を写した半切の写真二葉が展示されました。会場である防府市公会堂のロビーでの展示でしたが、往来の人々も多く、6月16日(金)から18日(日)にかけて有意義な企画となりました。

2. 第22回山口県高等学校総合文化祭 将棋部門大会 兼

第36回全国高等学校将棋選手権大会県予選

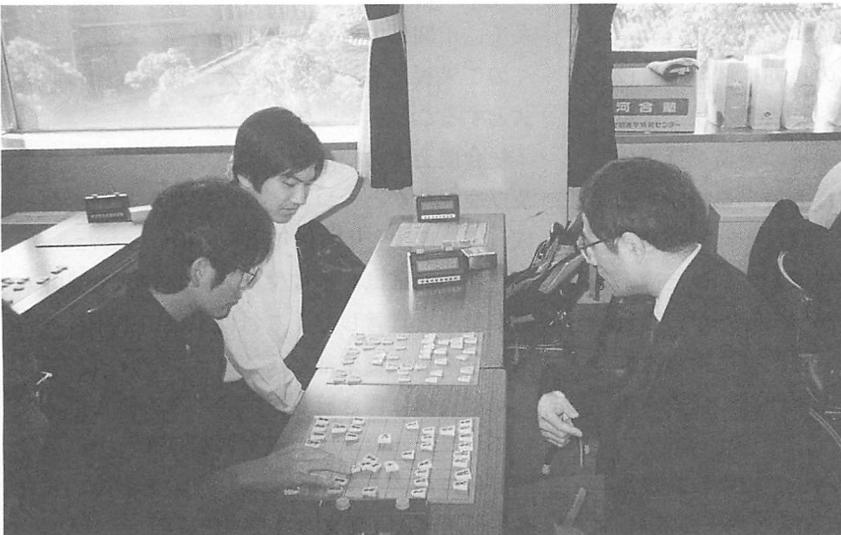
防府商業高校主管の下、5月28日(日)に中国新聞山口支社3階ホールにおいて開催されました。個人戦と団体戦に、10校60名が参加し、盤上熱き戦いが繰り広げられました。個人戦で

は防府高校2年の近江徹哉君が、団体戦では宇部高校(浦野亘弘・芥川裕哉・見坂卓郎の3君)が、それぞれ連覇を果たし全国大会出場の榮譽を手にしました。また、宇部高校より女子の参加もあり、少しずつですが女子生徒の参加が定着する傾向が見られるようになりました。

3. 山口県高等学校文化連盟将棋専門部研修会

防府商業高校主管により、11月5日(日)防府市文化福祉会館で行なわれました。理事の諸先生を中心とした大会運営の研修と、1・2年生5校39名の棋力向上を図る内容でした。5年目を迎える本年は、従来の方法に加え、研修対局決勝戦の模様を元全国学生名人・重本由紀夫日本将棋連盟アマ五段に大盤解説していただきました。単に対局によるだけでなく、将棋の基本となる理論が明快に伝えられ実りのある研修会となりました。なお、研修対局では宇部高校2年の藪本勝治君が、先述の近江徹哉君を降し優勝しました。

5年間を振り返り、当初は約40名の参加でスタートした部門大会から、年々参加者の拡大は進んでいます。女子生徒への普及その他、多くの課題も見えてきました。今後共、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。



第22回 山口県高等学校総合文化祭の記録

総合開会式

会場：防府市公会堂

主管校 藤元 徹
(防府西高等学校教諭)



平成12年6月16日（金）防府市公会堂において、『はばたけ 創造 2000年の空へ』をテーマに、第22回山口県高等学校総合文化祭総合開会式が防府西高等学校の主管で盛大に開催された。

総合開会式は、音楽4部の発表会（連合音楽会）と同時に開催されることになっているため、準備は2本立てとなり、この時期は例年主管校は多忙を極めることになる。そこで本校では単年度措置として、これらの準備の業務を行う特別な分掌を設置し、校内実行委員会を組織するなど、校内体制を整え全校全職員一丸となって取り組んだ。また本校には放送部がないため、進行は、本校は放送委員会が担当したが、委員会活動の一環でありながら、専門家に指導を仰ぐなどし、努力の結果立派に専門部の代役を果たすことができた。

開会式では、防府地区の高等学校の教職員や生徒の動員の協力により、1600人のホール満場

の高校生と教職員が、感動を共有することができた。このことは何事にも替え難い価値を持つと信ずる。

また、地元防府市からの協力も得、市長から温かい歓迎の言葉をいただくことができた。加えて、市関係の方々や県下各高等学校長など多くのご来賓にお越しいただき、盛大な総合開会式とすることができた。

総合開会式の構成は例年、ホール内での式典及び慶祝演奏と、ロビーなどでの慶祝展示から成っており、今年も例年通りの構成とした。

式典の開幕は、本校生徒会副会長、中嶋幹人君が堂々と宣言した。これに本校田中睦教諭の指揮で本校吹奏楽部によるファンファーレが高らかに会場に響き渡り、開会に華を添えた。続いて「高文連の歌」の演奏の鳴り響く中、各専門部代表がステージへ入場した。その後、教育長牛見正彦氏、高文連会長西田昇氏、主管校生

徒会長内田貴之君らからのあいさつ、地元防府市長松浦正人氏よりの歓迎の言葉をいただいた。

今年度の表彰は、優秀芸術文化賞が将棋専門部・県立防府高等学校2年近江徹哉君、同・県立宇部高等学校卒佐竹典子さん、写真専門部・県立熊毛北高等学校卒寺本久美さんに授与された。また、テーマ最優秀賞が県立宇部西高等学校書道部へ授与された。高文連功績賞の該当はなかった。

続いて、スライドによる各専門部の紹介が行われた。

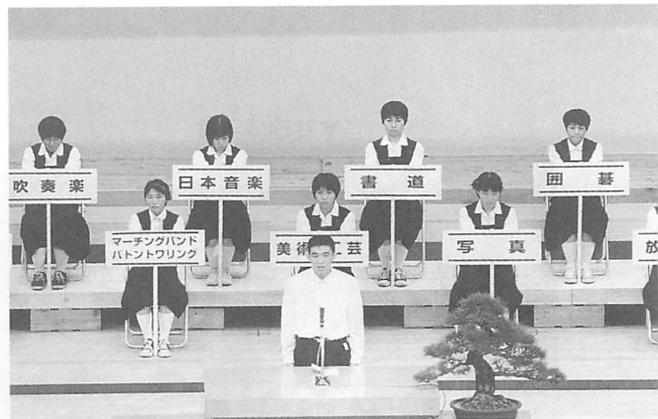
慶祝展示は展示関係の専門部全てと演劇、囲碁、将棋専門部による作品や行事写真の展示による。ロビーには総合開会式当日から音楽4部発表会の終了日まで、県を代表する素晴らしい作品の数々が展示された。

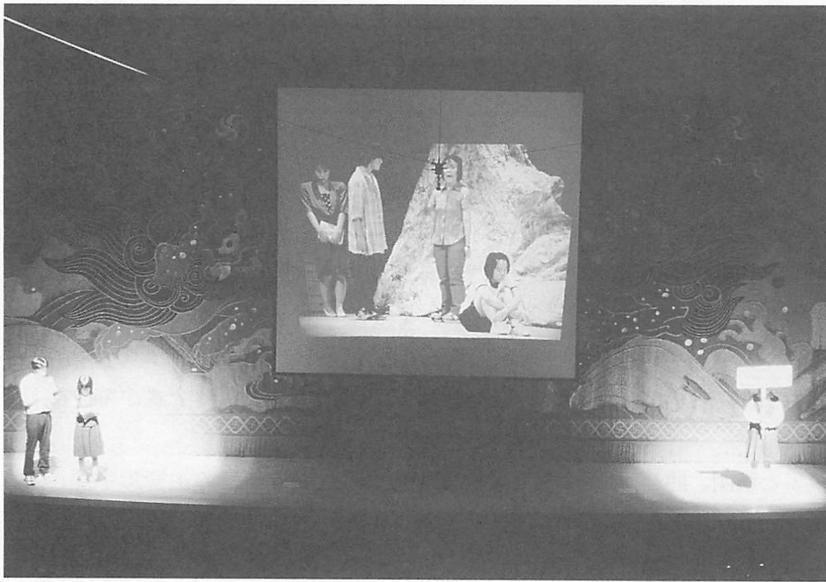
慶祝演奏は音楽関係の専門部全てと放送専門部によって行われる。まず、マーチング・バトントワリング専門部の演技で幕を開けた。佐波高等学校松浦真実教諭のドラムメジャーによって、佐波高等学校吹奏楽部の躍動的な演奏と、三田尻女子高等学校バトントワリング部による華やかな演技が、会場狭しとダイナミックに繰り広げられた。日本音楽専門部の演奏は、防府高等学校邦楽部による箏曲の合奏。日本を代表する演奏形態でありながら、日頃あまり直に耳にすることのできない琴の音色を立派に披露した。吹奏楽専門部からは、防府高等学校教諭下

濃正浩指揮による、約100名編成の防府地区高校合同吹奏楽団が見事な演奏を聴かせた。最後に合唱専門部と器楽・管弦楽専門部から編成された、総勢約260名の山口県高等学校合唱団と約100名の山口県高等学校管弦楽団の合同演奏により、「ハレルヤ・コーラス」と「大地讃頌」が壮大に演奏され、圧倒的な迫力と感動が会場内を包んだ。そして「翼をください」を山口県高等学校管弦楽団の伴奏の下、会場全員で合唱し、大きな感動を共有しつつ総合開会式が幕を閉じた。

来年は県立宇部西高等学校の主管で宇部市での開催予定である。

末文ながら今年度の総合開会式が、地元防府市や関係諸機関、関係の多くの先生方や生徒、保護者の皆様の御支援を賜り成功裏に終えることができたことを、心から感謝して結びとしたい。





▲部門紹介

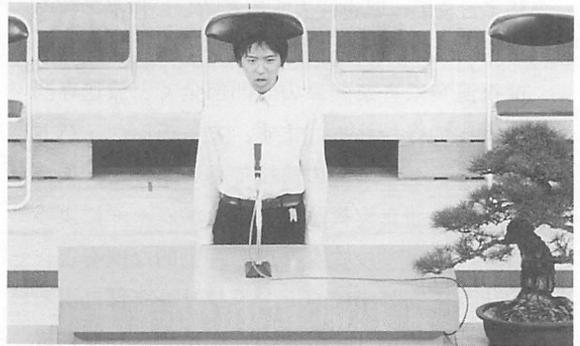


▲山本幸伸（野田学園高校）さんのイラストを基にしたポスター

▼駐輪場風景



▼慶祝展示



▼表彰式風景



▼受付風景



◇慶祝演奏

<マーチングバンド・バトントワリング>

『ミレニアム・マーチ・聖者の行進』

『イスパニア・カーニ』

【演奏】佐波高等学校

三田尻女子高等学校

(D.M.) 松浦真実

<日本音楽>

『月下美人』 『荒城の月』

【演奏】防府高等学校邦楽部

<吹奏楽>

『フラッシング・ウインズ』 『テキーラ』

【演奏】防府地区高等学校合同吹奏楽団

(指揮) 下濃正浩

<合唱・器楽管弦楽>

“オラトリオ《メサイア》より

『ハレルヤ・コーラス』”

“カンタータ《土の歌》より『大地讃頌』”

【演奏】山口県高等学校合唱団

山口県高等学校管弦楽団

(指揮) 藤元 徹

<全員合唱> 『翼をください』

【演奏】山口県高等学校合唱団

山口県高等学校管弦楽団

(指揮) 藤元 徹

<放送> 幕間出演および進行アナウンス

山口県高等学校文化連盟放送部会

◇慶祝演奏出演校

【マーチングバンド・バトントワリング】

佐波高等学校 三田尻女子高等学校

【日本音楽】防府高等学校

【防府地区高校合同吹奏楽団】

佐波 防府 防府西 防府商業

……各高等学校

【山口県高等学校合唱団】

安下庄 岩国 防府 山口中央 宇部中央

萩 奈古 高水 野田学園 香川 サビエル

ル 萩光塩学院 ……各高等学校

【山口県高等学校管弦楽団】

柳井 防府 山口中央 下関南 下関第一

……各高等学校

◇慶祝展示

<美術・工芸> 山防地区各高等学校及び高等部

<書道> 防府 防府西 山口 山口中央

野田学園 多々良学園 中村女子

防府養護 ……各高等学校及び高等部

<写真> 宇部工業 小野田 下関西

……各高等学校

<囲碁> 下関工業高等学校

<将棋> 防府商業高等学校

<演劇> 岩国総合(岩陽)

防府商業 ……各高等学校

◇進行アナウンス

県立防府西高等学校放送委員会

山口県高等学校文化連盟放送部会

◇山口県高等学校文化連盟

表彰者

【優秀芸術文化賞】

・近江徹哉(将棋専門部) [防府高校] 2年

…全国高等学校文化連盟将棋新人大会 第3位

・佐竹典子(将棋専門部) [宇部高校] 卒

…全国高等学校文化連盟将棋部門・全国高等学校将棋選手権大会 第3位

・寺本久美(写真専門部) [熊毛北高校] 卒

…全国高等学校総合文化祭山形大会展示部門

(写真) 優秀賞

【テーマ最優秀賞】

・山口県立宇部西高等学校 書道部



音楽関係 4 部門発表会

器楽・管弦楽部門

会場：防府市公会堂

理事長 **松永忠雄**
(下関南高等学校教諭)

平成12年度第22回山口県高等学校総合文化祭の音楽関係4部門発表会は6月16日(金)、17日(土)、18日(日)の3日間にわたり、“防府市公会堂”において例年の如く、高文連各部門のトップを切って開催されました。また、初日の16日(金)には、総合開会式が満員の聴衆を集め盛大に行なわれました。

器楽・管弦楽部門でも昨年同様、合唱部門との合同で式典の慶祝演奏に参加しました。今年ではオーケストラの編成を5校95名で組織して、250名を越えるコーラスと壮大なハーモニーをホールいっぱいに響かせました。演奏曲目は8年間続いた「タンホイザー大行進曲」から「ハレルヤ」に変え、例年の「大地讃頌」と2曲を演奏しました。今年も合同練習は当日の午前中だけという厳しい状況の中、藤元徹先生(防府西

高)の躍動感溢れる明確な指揮のもとで、開幕式典にふさわしく、荘重で輝かしい音楽が見事に演奏されました。その演奏は多くの聴衆に深い感銘を与えたことと思います。

さて、当日の式典後から3日間にわたって開催された音楽関係4部門発表会の器楽・管弦楽部門にはオーケストラ4校、ギター、マンドリン合奏2校、弦楽合奏1校の出演があり、多数の参加があった吹奏楽部門(約50校)に混じって、一服の清涼剤ともいえる演奏を披露しました。各校ともに弦楽器独特の艶やかで、柔らかい音色を備えた立派な演奏で、大会を大いに盛り上げました。

次回の宇部大会ではさらに練習に励み、研鑽を積んだ成果が十分に発揮されることを期待しています。



合唱部門

会場：防府市公会堂

理事長 **有富美子**
(萩高等学校教諭)

平成12年度第22回山口県高等学校総合文化祭の音楽4部門発表会は、6月16日（金）、17日（土）、18日（日）の3日間をかけ、「防府市公会堂」にて、盛大に開催されました。16日の開幕式典では、例年のように器楽・管弦楽部門と合唱部門と合同で慶祝演奏に参加しました。

オーケストラと253人の大合唱は、ホール一杯に響き渡り、大いに盛り上がりました。男子部員の減少に伴い本年度より、演奏曲を《タンホイザー》より「大行進曲」から、《メサイア》より「ハレルヤ・コーラス」に変更しました。日頃小人数で演奏活動をしている生徒達にとってはもちろんのこと、聴衆の方々にも深い感銘

を与えたことと思います。

その後、音楽4部門の発表に移り、高校生の熱心な演奏が続きました。

合唱部門の出演校は11校（奈古、香川、萩、山口農、高水、宇部中央、野田、防府、萩光塩、岩国、サビエル）、出演者数は239名でした。会場一杯にさわやかな歌声が響き渡り、人間の声の素晴らしさに改めて感激しました。来年度、“宇部市渡辺翁記念会館”で開催される大会ではさらに練習に励み、一人でも多くの合唱部員を増やし、より美しいハーモニーを聞かせて下さい。期待しています。



吹奏楽部門

会場：防府市公会堂

理事長 **和田道明**
(光丘高等学校教諭)

平成12年度第22回山口県高等学校総合文化祭の音楽4部門発表会は6月16日（金）、17日（土）、18日（日）の3日間、防府市の「防府市公会堂」で開催されました。

吹奏楽部門として例年の通り開幕式典に防府地区4校（佐波、防府、防府西、防府商業）合同吹奏楽団約110名を編成し、防府西高校の田中睦先生の指揮で、「ファンファーレ」そして「高文連の歌」で華やかに開幕し、慶祝演奏では下濃正浩先生の指揮で「フラッシング・ウインズ」「テキーラ」の2曲を演奏しました。力強くすばらしい演奏を披露してくれました。

音楽4部門発表会は、16日から18日の3日間にわたって行われました。吹奏楽部門は、県内から51校1,647名の参加がありました。年々レベルの向上には目を見張るものがあり、各校とも吹奏楽の持つ輝かく力強いサウンドで聴衆を魅了しました。

一日の最後には、下関商業高校・岩国高校の伴奏で「翼をください」を全員合唱し、感動の中で閉幕しました。

来年度は、“宇部市渡辺翁記念会館”で開催されます。また来年もすばらしい演奏を期待しています。



マーチングバンド・バトントワリング部門

会場：防府市公会堂

理事長 花村 慈 照
(宇部女子高等学校教諭)

第22回山口県高等学校総合文化祭の音楽4部門発表会は、6月16日(金)・17日(土)・18日(日)の3日間防府市公会堂で開催されました。マーチングバンド・バトントワリング部門として開幕式典には佐波高等学校のブラスバンドの演奏と三田尻女子高等学校のバトントワリングの演技で「ミレニアム・マーチ・聖者の行進」と「イスパニア・カーニ」の2曲を披露しました。音楽4部門の発表にはマーチングバンドでは3校95名、バトントワリングには2校40名の参加がありステージいっぱいステージドリルを展開することができました。

『県総文祭に参加して』

宇部女子高等学校 重安奈央子

県総文祭では、今回バトンとミニフラッグを使ったなめらかな曲と、それとは対照的な曲を使った指先でダンスをしました。振り付けは三年生が、毎日放課後遅くまで考えて、すばらしい振り付けができあがりました。衣装なども本番直前まで作りました。始めは演技も曲とはなかなか合いませんでした。バトンを落としたり、フラッグを飛ばしたり失敗の連続でしたが、卒業された先輩からは「失敗は成功の元」『がんばれ・がんばれ スマイル・スマイル』とはげまされた事を思い出し、自分自身の緊張をほぐしてがんばりました。本番の演技が終わってステージを降りた時、バトンを続けて良かったと実感が出ました。



県高総文祭・日本音楽・吟詠部門

会場：シンフォニア岩国

主管校 **木坂佳津江**
(岩国商業高等学校教諭)

山口県高等学校総合文化祭日本音楽部門の発表大会も、回を重ねて22回。今年は6月18日(日)岩国市の“シンフォニア岩国”を会場として開催されました。県の東端の会場で、交通の便を考えると、どれくらいの参加をいただけるものか心配していましたが、20校21団体の参加を得ることができました。大会では、琴の演奏を中心に、太鼓・仕舞・詩吟等が次々と披露されましたが、いずれも日頃の練習の成果が十分に発揮され、高校生らしい、はつらつとした立派な発表でした。例年出場されている2、3の学校が、事情により欠場であったのは残念でしたが、来年はきっとまたもどってくださることでしょう。

邦楽部に長い歴史を持ちながら、本校は14年ぶり2回目の出場、しかも主管校ということで、何か月も前から緊張感がありました。とにかくまずは悔いの残らぬ演奏をしようということで部員一同、心を一つにして練習に励みました。生徒も必死なら、初めて指導に携わる私の方も必死でした。大会が近づくにつれて、緊張感はますます高まったものの、一つの音楽を皆

の“こころ”で作り上げていく喜びをしみじみと感じるようになりました。琴を通して、一人一人の生徒が、どんどん変わっていきました。生徒ともども充実した期間でした。

主管校の引き受けは、もちろん初めてのことで、あの大きな会場での大会を無事終了することができたのも、多くの方々からいただいたお力添えのおかげです。心からお礼申し上げます。本校の生徒・教職員の温かい支援のもと、遠路はるばる岩国に来てくださる方々のためにも、心のこもった大会運営をと心掛けたつもりではありますが、行き届かなかった点もあろうかと思えます。どうかご容赦ください。

中学校の新学習指導要領の改訂を受ける形で、高等学校の新学習指導要領・芸術科音楽には、「我が国や郷土の伝統音楽の重視」が掲げられており、「表現」領域の「器楽」においては、「我が国の伝統的な和楽器を含めて扱う」と加えられています。部活動を中心としながら、今後高校生の邦楽への関心が、より一層高まっていくことを切に願ってやみません。

はばたけ 創造 2000年の空へ



県高総文祭・展示関係部門

会場：美術・工芸部門……山口市民会館展示ホール
書道、写真部門……山口市民会館小ホール

主管校 **濱野邦昭**
(山口高等学校教諭)

11月16日から19日までの3日間、山口市の山口市民会館において県内の各高等学校、高等部より選ばれた、計264点の美術・工芸、書道、写真の力作が一堂に展示されることとなった。会期中、何とか天候にも恵まれ、表彰式等の行事も含め、慌ただしくも、有意義な3日間を無事終了することが出来た。準備に、そして後片付けに大忙しだった山口市内の高等学校の部員諸君の印象は如何であったろうか。

4月以降、予想外の忙しさで、展覧会開催の初日まで、ずっと気分の落ち着かない日々を過ごしてきたというのが私の正直な感想だ。県内の中心部とはいえ、市内で5つの高等学校。それも各学校共、部のそれぞれの事情から決して樂觀的な気分は味わえない、何とも多くの不安要素を抱えこんだままのスタートであった。わずか3日間の展覧会とはいえ、実際の準備がこれ程までに大変なものだとは夢にも思わなかった。しかし、展覧会を終え、一日一日と日が経つにつれ、実に、多くのことを学び得たことに気がつき始めている。まずは展覧会の主役である生徒諸君の力作。昨年と比較すると点数の上では多少減ったものの、どの作品の中にも制作に対しての真剣な思いが感じられ、我々の心を強くもたらえて離さなかったこと。澄んだ情熱の炎ともいうか、若さ故の純粋な感動。私自身、大変な刺激を受けた。また、展覧会前日の作品受付から始まって、会場準備、会期中の受付、終了時の作品搬出に関わる作業、会場の後片付けに至るまで、その間に感じた数多くのことがら。西京、山口中央、野田学園、中村女子の各部活躍顧問の先生方の御協力、奮闘振りに対し、心より敬意を表したいと思う。それぞれの分担にお

いて各先生方の指揮のもと、各校の生徒諸君が力を合わせて一生懸命、準備にあたってくれたこと。私達、山口高校の教員達も他校の生徒諸君と作業を通しての数多くの会話の中で、日頃、味わえない感動と充実感を持つことができたのではないかと思う。私自身、この山口という小さな田舎町の中で、さらに狭い一つの学校という世界でしか生きていないということ。

何かしら、そうした現実を改めて気付かせてくれることとなった。このような機会でもなければ、他校の生徒諸君と一緒に笑って話をするなど、日頃、そう期待出来るものではない。そうした意味でも大変すばらしい思い出ができた。

展覧会に関して、昨年以上の盛り上がりがあったか否かについては、明快な答は出せないでいるが、ただ、我々の気持ちを一つ表に出すとすれば、準備スタッフが、精一杯の心を込めて、表彰式の準備にあたったこと。心より祝福の気持ちを伝えたいという、そんな思いが、受賞された皆さんの記憶のどこかに、少しでも留まっ



てくれればと思っている。そして、それが新たな制作に対する出発と情熱に結びついてくれたらと願っている。

最後に受賞された諸君をはじめ、その他、展示作品の各作者諸君に。まずは、作品が多くの方々の目に止まり、君達一人一人が、それぞれの作品に託した熱き思いが、鑑賞者一人一人の心に焼きついたであろうことに対して、心よりおめでとう、と言いたい。

そして又、この展覧会が出来上がるまで、いわゆる、裏方の仕事に徹して汗を流して下さった多くの先生方、そして、各部員の努力と汗に対して感謝の思いを寄せて欲しい。

私自身、そのことの大変さと貴さを、この年になって改めて痛感している。

大変ではあったが、素晴らしい体験と、楽しかった光景だけが頭の中を巡る。やってみて本当に良かった。ありがとう。



第22回県総文祭展示部門出品校一覧表

出品校					出品校					
学校名	美術・工芸	書道	写真		学校名	美術・工芸	書道	写真		
01	安下庄				53	下関南		3		
02	久賀				54	下関第一		4		
03	岩国	5	4		55	中央工業	1			
04	岩国総合	5	4		56	下関工業				
05	岩国商業				57	響				
06	岩国工業	3			58	豊北				
07	坂上				59	日置				
08	広瀬				60	大津	1	3		
09	高森				61	水産				
10	柳井				62	萩	1			
11	柳井商業	2			63	萩商業	3	3		
12	柳井工業				64	萩工業	2			
13	熊毛南				65	徳佐				
14	田布施農業				66	奈古				
15	田布施工業				67	盲聾				
16	光				68	聾	2			
17	光丘				69	岩国養護				
18	熊毛北		3	10	70	田布施養護				
19	下松				71	徳山養護				
20	華陵				72	周南養護				
21	下松工業				73	防府養護		4		
22	徳山		4	5	74	山口養護				
23	徳山北				75	宇部養護				
24	徳山商業				76	下関養護	4			
25	徳山工業				77	豊浦養護				
26	鹿野				78	萩養護				
27	新南陽			7	79	下関商業	5	4		
28	南陽工業				80	高水	4	4		
29	佐波				81	柳井学園				
30	防府	2	4		82	聖光				
31	防府西	3	1		83	桜ヶ丘				
32	防府商業				84	三田尻女子				
33	山口	5	4	7	85	多々良学園				
34	山口中央	5	4		86	中村女子		4		
35	西京	5		4	87	野田学園	5	4		
36	山口農業				88	山口鴻城				
37	宇部	5	2	8	89	宇部鴻城			5	
38	宇部中央	4	3		90	宇部女子	3			
39	宇部西		4		91	美祢中央				
40	宇部商業	5	3		92	香川				
41	宇部工業		4	10	93	サピエル	2			
42	小野田			8	94	下関国際				
43	小野田工業				95	梅光女学院				
44	厚狭	2	3		96	早鞆				
45	美祢				97	下関女短大付属		2		
46	大嶺	2			98	長門				
47	美祢工業			8	99	萩光塩学院	4	4		
48	田部				100	山口大付属養護				
49	西市				出品作品数		99	90	75	
50	豊浦	4			出品作品総数		美工・書・写 合計264点			
51	長府	5			出品校数		29	26	11	
52	下関西		4	3	出品校総数		美工・書・写 合計43校			

※各部門欄は出品数

第22回 県高総文祭展示部門・優秀作品一覧

美術・工芸部門

高等学校名	学年	氏名	作品名	全総文候補作品
宇部高等学校	1	小中大地	通学路	◎
宇部商業高等学校	2	繁永千恵	自然	◎
萩高等学校	2	林澄華	帰り道	◎
下関商業高等学校	2	下田舞	呼吸の浸透	◎
下関商業高等学校	2	藤本良平	木々は枯れはて	◎
岩国高等学校	2	河村仁美	秘密の場所	
岩国高等学校	3	川角まい	season161718	
岩国総合高等学校	3	森本由佳里	人物画	
野田学園高等学校	3	山本幸伸	静物	
野田学園高等学校	3	藤本麻衣子	ガラクタ	

書道部門

高等学校名	学年	氏名	作品名	全総文候補作品
大津高等学校	2	大谷幸子	臨木簡	◎
野田学園高等学校	1	渡辺邦夫	臨蘭亭序	◎
防府西高等学校	1	米谷宏子	臨木簡	◎
防府高等学校	2	羽嶋優貴	臨道因法師碑	◎
山口高等学校	1	宇山芳子	臨雁塔聖教序	
宇部中央高等学校	2	原田浩江	蟠胸有丘	
徳山高等学校	1	和田理美	臨雁塔聖教序	
熊毛北学校	1	岡村真由美	臨建中告身帖	
厚狭高等学校	1	河村朋美	臨蘭亭序	

写真部門

高等学校名	学年	氏名	作品名	全総文候補作品
宇部高等学校	2	杉山美穂子	Candy sugar	◎
宇部工業高等学校	1	和田拓	ねえ!! 母さん	◎
宇部工業高等学校	2	藤井昭光	IT革命	◎
徳山高等学校	1	中野由香里	呑み込む学校	◎
徳山高等学校	2	淵英俊	アレグロ	◎
新南陽高等学校	3	内富清香	応援(1)	
下関西高等学校	2	杉本紗耶加	放課後	
美祿工業高等学校	2	藤岡隆二	ガブッ!	

※第25回全国高総文祭（福岡大会）候補作品は上記の美術工芸5、書道4、写真5。

美術・工芸部門

会場：山口市民会館展示ホール

理事長 **平田博英**
(岩国工業高等学校教諭)

山口市民会館展示ホールに飾られた99点の作品は、昨年度と比較すると、出品数では少し減ってしまいましたが、高い水準にある作品が多く見られました。

生徒数減に伴う影響か、ここ数年出品数は減少の傾向にあります。ただ、出品校25校の昨年度と比較し、30校の出品校を数えたのは、作品数が減少する中、今回の成果だといえるでしょう。1校につき5点の上限を満たして出品した学校は10校でしたが、1作品のみの出品校も4校ありました。

各学校における美術・工芸部の現状は分かりませんが、部員数が減少していることは予想されます。中には、部そのものを維持することが難しいといった状況にある部も、少なくないかもしれません。その中で、この県高総文祭への出品が、制作への大きな励みとなってくれることを期待します。

さて、美術・工芸部門の全国的な動きは、絵画、デザイン、彫刻、工芸という分け方から、「平面と立体」という、2種類の分け方へ移行しつつあります。その状況を踏まえ、今回の部門展を評価すれば、立体作品の数が本当に少ないということです。立体を専門とする指導者が少ない現状もありますが、各校の美術・工芸部で、積極的に取り組む状況にないことも原因のひとつです。例えば「専門部会で立体制作の研修を行う」等の具体的なことから、指導する側も始めなければならないのかも知れません。

今回、全国高総文祭に出品する5作品は、ここ数年特定の学校に偏りがちであった状況からは、結果的には、多少回避された形で選ばれました。全国高総文祭に参加する生徒は勿論のこ

とですが、引率して参加される部顧問の先生にとっても、全国の動向を実感する上で、大変貴重な体験となります。そのことを考えれば、多くの部顧問の先生方に参加していただきたいという思いがありますし、そのことを可能にする選考の基準も必要なのではないかという意見も多く上がっています。高文連の主旨を考えれば、大変意味のある事柄だと思います。

今年度展示3部門は、11月17日から3日間開催されましたが、最終日は表彰式と講評会が行われ、県内から多くの美術部員が集まってくれました。表彰式には全国高総文祭への出品候補作品となる5人の受賞者が顔をそろえ、また、講評会では会場狭しといわんばかりに多くの高校生が、先生方の講評に耳を傾け、盛況なうちに幕を閉じました。

最後に、残念なことをひとつ。最終日の講評会の最中だと思われませんが、パネル張りのデザインの作品が、心無い何者かによって破損されました。関係者にとっては非常にショックな出来事でしたし、特に作者である本人が講評会に参加しており、後でその事実を目の当たりにした時は、どう声をかけてよいか分かりませんでした。同じ志を持つ者の仕業ではないことと考えたいですし、このようなことが二度と起こらないように、対策を練る必要があります。

12月に県主催の山口県学校美術展が、県立美術館で行われました。その会場で、破損された作品と同じ画風のデザインを見つけました。作者名も同じでした。作者の傷ついた心がどれだけ癒されたかは分かりませんが、新作に取り組んでいるその事実、私自身は随分と救われた気持ちになりました。

書道部門

会場：山口市民会館小ホール

理事長 古屋元子
(山口高等学校教諭)

山口市民会館小ホールをほぼ真中で二つに分け、書道と写真部門の展示会場を設営。パネルの数に制限があり、書道の額をぎりぎりの間隔で飾り終えてほっとしたが、7年前の総文祭に比べて少々窮屈な展示でした。

本年度は出品校数26校、総出品数90点と昨年度より増加。特にこれからは、出品校数が全総文の各県出品点数割当てに影響する為、不参加校にも呼びかけて出品をお願いしたいと思う。

さて、出品作品を種別に分けてみると、
漢字……76点 仮名……4点
漢字仮名交じりの書……6点 篆刻……4点
やはり圧倒的に漢字作品が多いが、是非漢字仮名交じりの書にも挑戦したい。この発表会が優秀賞を選ぶコンクール形式であるため、作品化しやすい漢字作品に向かう傾向は仕方ないが、若い感性を爆発させてほしい。これは生徒ではなく、指導者の課題であるが。

全体的に見ると山口県の作品は素直で真面目なものが多いが、書き込み不足も感じる。勉強等に追われ、放課後部活で納めゆくまで書くことが難しくなっているのだろうか。又手本の介在が目立つ作品も見受けられた。生徒が自分の思いをしっかりと持ち、何を書きたいのか、どのように表現したいのかを部顧問と充分に対話することが必要ではないだろうか。

今回5人の審査員による審査で9点の優秀賞が決定され、その内の4点が全総文候補作になった。それぞれが高校生の持つ熱意、真面目、清潔、躍動に溢れた力作であったが、さらに福岡大会に向けて、それぞれの個性に合った若らしい作品を仕上げたいと願っている。

最後に、講評会後参加生徒(25人)に行ったアンケート結果を報告する。これは今年度全総文静岡大会でのアイデアを拝借。

『あなたの選んだ1点』出品者名とその理由

○1位(4票) 防府養護 早稲田正浩さん

「風」

・勢いを感じた ・風を感じた

○2位(3票) 宇部中央 原田浩江さん

「蟠胸有丘壑」

・インパクト強い ・私も思い切り書きたい

○3位(2票) 高水 由川雅恵さん

「臨真(草)千字文」

・細字を書く根気に感心

・紺紙に金字がきれい

○3位(2票) 防府 木下綾子さん・中司裕子

さん

「臨真草千字文」

・一つの作品で二つ楽しめた



写真部門

会場：山口市民会館小ホール

理事長 **大濱進治**
(宇部工業高等学校教諭)

今年度の写真部展示は、山口市民会館で開催されました。今年は、講師の先生（前田隆義先生）の指導で最終日の講評会の前にレフ板を使った本格的なモデル撮影会を山口市パークロードで行いました。この日は、天気も良くパークロード沿いの紅葉がとてもきれいなこともあって他の写真団体のフォトグラファー達で賑わっている中、県内から集まった写真部の生徒諸君も一生懸命にシャッターを切っていました。また、今回は美術部の生徒の参加もあり感動いたしました。光の状態も良く、モデルの表情を一瞬でも逃さないような緊張感の中での撮影会は大盛会でした。出来上がった作品を見るのがとても楽しみです。

講評会では、講師の前田先生が作品一つ一つを丁寧に評価して下さいました。出席した生徒

諸君は、自分の作品の良いところ、改善しなくてはいけないところをはっきりと理解できたのではないかと思います。前田先生から今回の写真展に関してのアドバイス・感想を書いていたので掲載します。

山口県高校文化連盟写真コンテスト講評

日本報道写真連盟

宇部支部長 前田隆義

今年度の応募作品は、初心者作品と思われるものから技巧派までの幅広い層の生徒さんから出品されており、山口県の写真文化向上を図る上で大変よかったと思っています。

入賞作品を講評すると、写真及び画題から作者がなにを表現しようとしているのか解り、シャッターチャンスの瞬間における音や会話といった状況描写がうまく表現できているものが入賞しています。

題材から見ると、友達、家族、ペットをモチーフにした作品が数多く爽やかな印象を受けましたが、それだけに安易に写真を撮っただけで終わったものも幾つかありました。記念写真とか記録写真であれば十分満足できる作品になっていますが、写真を芸術点の高い作品にまで仕上げるのであればもう一工夫欲しいところです。

では、どのような工夫をするかは、今回の審査を例に上げて紹介しますので、これを参考に作品づくりを考えてください。

高文連写真部門の審査に当たっては、次の三項目を重点に行いました。



1. 作画意図が第三者に解ること。
(作品と画題を含む)
2. 仕上げが良いこと。
(このくらいなどと妥協しない)
3. 部門ごとに作品を1点とした。
(ポートレート、スナップ等々)

審査において、作品が見慣れたものだと、新鮮味を感じなくて、少しくらい良い作品では入賞が難しくなっていますので、目新しい被写体を探るか、見慣れたものであれば新たな視点から撮影するなど、表現方法に挑戦してください。

審査基準についてもう少し、詳しく説明すると次のようになります。

1. 作画意図が第三者に解ること。
(1) 自分の意図した内容が写真を見ている人に伝わるか

入賞作品は、審査員の立場でみて作品及び画題から作者の意図が解るものを選んでいきます。同じ内容を違った表現にすると、ひとつの作品を見て長い感想文を書くことが出来る作品が入賞作品ということになります。

作品を作る上では、自己満足の写真ではなくて自分の個性を自分以外の人達にどれだけ強くアピールできるかということが大切です。新聞や小説等幅広く勉強し感性を磨くことで、良い作品を作ることが出来るので実行してみてください。

- (2) 画題は作品の一部

応募作品の幾つかの画題は、写真の内容に関係ないものや画題が思いつかないためか、不適當なものがありました。これでは作品の意図が審査員や見ている人に伝わらないのでよくありません。画題は作者の意図を伝える重要なもので作品を助けるような画題をつけるようにします。

2. 仕上げが良いこと。
応募作品のうち内容がとてよくて入賞作品にしたいと思うものがありました。

プリントが濃く、落選したものがあります。良い内容のものであってもプリントが良くないばかりに落選することがあるので、妥協せずに最後まで丁寧仕上げするようにします。

作品展に出品する場合、写真の表装の仕方ひとつによっても作品の出来上がりが大きく変わるため、自分の作品を引き立てるには額に入れるか、マット張りにするかを総合的にみて判断をします。

3. 部門ごとに作品を1点とした。
応募作品であるジャンルには良い作品が複数ありましたが、写真展での展示を考えると、同じ内容のものばかりが並んだ写真展では見飽きてしまうし、変化が少なくこれだけかと、写真を見る人に思わせるところがあるので、バラエティーに富んだ内容とするため、応募作品をいくつかのグループに分けその中から1点を選出しています。

これから作品を作るときに考えて欲しい内容として、「感性をいかに表現するか」があります。写真芸術を考えると、写真雑誌に掲載されていたもの、写真展で良いと思ったものを真似て撮っても、作者の個性が入りきらないため習作で終わります。初心者のうちであれば、どんどん真似をして撮り、そのなかで写真の技術を学び、個性を発揮できるジャンルを見つけて、自分にしか撮れない作品を作ってください。

皆さんが、写真芸術に興味を持ち、カメラを持ち歩き、人と関わる中で素晴らしい作品を作り、人間的に成長されることを期待しています。



囲碁部門

会場：下関工業高等学校

理事長 **安藤 公隆**
(下関工業高等学校教諭)

平成12年度の第22回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門の第12回大会兼第25回全国高等学校文化連盟囲碁部門第14回大会の県予選は、平成12年10月29日(日)高文連会長西田昇校長先生、指導課主事山田尚子先生、高文連事務局長角中悦太郎先生を迎えて、下関工業高等学校で開催されました。参加校は13校で男子68名、女子17名計85名で、終日熱い戦いが続きました。団体戦は3人で1チーム、トーナメントで防府高等学校が優勝しました。個人戦は四面打ちの変則リーグ戦(ハンディ戦)で団体戦と同時進行で行われました。結果は次の通りです。

- ＜団体戦＞男子 優勝 防府高等学校
 準優勝 山口高等学校
 第3位 徳山工業高等学校
 第3位 萩高等学校
- 女子 優勝 宇部高等学校
 準優勝 萩高等学校

＜個人代表決定戦＞

- 男子 優勝 小野慎吾 新南陽高等学校
 女子 優勝 貞政伸恵 宇部商業高等学校

＜団体代表決定戦＞

- 男子 優勝 工藤正英 豊浦高等学校
 優勝 宮田 良 防府高等学校
 女子 優勝 久本仁美 宇部高等学校

なお、全国高校総文祭の代表決定戦は、第4戦目に行い、3回戦までの成績と棋力を考慮に入れて選抜委員が10名を決定し、対局時計を使用し、互先で代表権をかけて行いました。それぞれ優勝の5名の者は、平成13年8月6日(月)～7日(火)に福岡県春日市で開催される全国大会に出場する予定です。個人戦男子に出場する小野慎吾君(新南陽高校)は昨年は惜しくも6位でしたが、一般においてもトップクラス棋力を有しており、全国大会の優勝を期待できる生徒です。

囲碁は、集中力、思考力、決断力が瞬時に問われます。囲碁で培った力と、深い人間的な絆を支えに21世紀を切り開いて下さい。



演劇部門

会場：下関市文化会館

理事長 **三藤真人**
(厚狭高等学校教諭)



今年は高校演劇の熱高い下関地区での県大会。主管校の田部高校を中心に準備、運営にあたってもらった。下関文化会館は10月13日のリハーサルから熱気にあふれていた。

14日(土)～15日(日)と上記の8校の上演。舞台装置の工夫や演技は練り上げられ、観客に訴える力を持った作が並ぶ発表だった。

創作の2本も力の込められたもので、この傾向はもっと広がるよう、生徒の創作の芽をみつけ伸ばしていく必要を感じる。

この県大会で学んだことは、まず、舞台での上演と、裏方で舞台を支えるスタッフが、それぞれに最高の力を発揮しようとするのだが、その全体的なまとまりと効果的な観客席への提供となっているかどうかの点検、客席に座って観る者の立場で舞台をチェックすること。その総合的なコンダクターとしての舞台監督の役割の重要性というものだった。

講師の先生の指摘をふりかえっておくと、今回の演劇の構成が、プロローグ・本篇・エピローグという形式にこだわるものが目につくこと。あまり行き過ぎずに、全体がスムーズな展開になること。また一番力を入れなければならないことが、きちんと表現できているかどうかを、

一步はなれた位置から見てとること、だった。

高校の演劇が全国的に、発表会では全て60分の枠の中で演じられるのだが、その中に人の心を動かすべく心と感情を送ること、これ一つをとってみても大変高い目標だが、全体的な総合芸術としての演劇の奥深さを一人かみしめている。

第22回山口県高等学校総合文化祭演劇部門
第19回山口県高等学校演劇大会
出場校・上演作品

学校名	作品名	作者名	創作
下関西	プレゼントタイム	福川加奈子	◎
厚狭	生徒の会話	西山 暁子	
防府商	静粛に！ ～王様だーれだ？～	岡田 淳 (演劇部脚色)	
岩国総合	ディア・フレンド ～こもれびの中で～	西沢 周市	
田部	14歳の国	宮沢 章夫	
華陵	ぼくんち	廣井 直子	◎
山口県鴻城	飛ぶ教室	結城 翼	
下関南	ナツヤスミ語辞典	成井豊(演劇部脚色)	

<講師・審査員>

篠崎光正(演出家・桐朋学園大短大部教授)

<審査員>

山口武信(劇作家) 黒石一治(香川高)

放送部門

会場：ニューメディアプラザ山口

理事長 **青木幸子**
(山口農業高等学校教諭)

11月5日、山口農業高校主管のもと、本年度もニューメディアプラザ山口で第7回放送部大会が開かれました。あっという間の7年っていう感じですが、その間、仲間数がどんどん増加し、大会のたびにその絆が強まっていくような気がするのです。夏8月下旬に行われる研修大会の頃から、この大会へむけてのモチベーションは少しずつ上がりはじめ、各々の高校ごとに、いわゆるサトラップによる今年のテーマ、ネタについての情報交換。かぶっちゃあ一困るものが本音ですが、ホントのところは、11月までに、そのネタをどう料理してくるのかのお手並み拝見へのワクワク感を高める効果もあるのです。

アナウンスの内容は、今年は山口県との国際交流の町について。今まで知らなかった山口について「おもしろ発見」みたいな感じで、とっても役に立つインフォメーションいっぱいのアナウンスでした。ただ「只今はじけたいでいっぱい」の高校生にとっては、若干「マジメを売り」にしなればいけなかった分、少うし「らしさ」が発揮できなくて…という声も聞こえてきましたが、取材を通して知らなかった山口のいろんなものに出会えたことは、聞き手、ギャラリーにとっても、アナウンスした本人にとってもラッキーだったのでは？と思いました。

朗読に関しても「異国」がテーマだったので素材選びに各々大いに頭を悩ませたものの今まで過去の大会ではなかったくらいの超ウルトラハイレベルの朗読目白押しで、勝アナウンサーが「すごすぎ」って唸っておられるほどでした。

コンテストの雰囲気は午前中はピーンとはった快ちよい「緊張」そして午後のビデオ・オーディオになると、張り詰めていたものが一挙に溶け出して出していき、まさに一同「なごみ」空間に突入っていく感じ。昼のランチタイムがいつも大盛り上がりっていうのが、この県総文の特徴。NHKの大会で寝食を共にした仲間との久しぶりの再会で、もう、あっちでもこ

っちでもシャウト、シャウト。こんなところでお腹から声出さなくてもいいのに…と思わずっこみたくなるのですが、まさに「昔とった杵柄」って感じなのか。そのままお昼からの部門に突入するものですから、もう全員「笑い」で待ちの態勢が出来上がっている。少しでもウケルもの、ユーモラスなものがあるものなら、午前の時の笑いを取り戻すかのような大爆笑。まさに、人生における「笑いの効用」なるものを、次のラジオ番組にしようかしら…なんて思いたくなるほどです。

今回は「オカマ」の牛を登場させて、「アタシャー 生まれは大五郎 でも今じゃあ マリリン」ってやっちゃったの。山農の牛がギャラリーをゲットして、あまりの大笑いに「聞こえないゾオ」のヤジがあるほど。

来年にむけての再会と、Nコンでのライバルへの熱き挑戦状を渡しつつ、みんなが心晴れやか。笑い顔っていいナの気分で会場を去っていったのでした。

テクニク的なものの進歩、作品制作への情熱ももちろんですが、なんていっても、放送を通じて作りあげられるネットワークのすばらしさに、感動することしきりといった感じ。す。

来年度 <福岡大会への出場者>

アナウンス部門／

華陵高校	道源茉莉	(最優秀)
山口高校	安部杏実	(優秀)
熊毛南高校	吉岡聡美	(優秀)

朗読部門／山口高校

青木彩子	(最優秀)
熊毛南高校	西村裕恵 (優秀)
岩国高校	牧田由美子 (優秀)

ビデオメッセージ部門／

山口高校
「シンプルイズベスト大内人形」

オーディオピクチャー部門／

山口農業高校「アタシは農高の牛」

将棋部門

会場：中国新聞山口支社

理事長 **弘中敏之**
(防府商業高等学校教諭)

第22回山口県高等学校総合文化祭将棋部門大会は、全国高等学校総合文化祭将棋部門兼第36回全国高等学校将棋選手権大会の県予選を兼ねて、5月28日(日)中国新聞山口支社において開催されました。5年目を迎え、大会の企画運営等関係諸団体との連携も軌道に乗った感のある大会となりました。高文連会長西田昇校長先生、同じく事務局長角中悦太郎先生をお迎えしました。参加校は10校でしたが、男子59名、女子1名と前年を上回る参加がありました。競技方法については例年通り総平手。個人戦は3～4名1組の予選リーグを行い、2勝を挙げた2名はA級トーナメント、残りの生徒はB級リーグ4回戦を戦いました。団体戦は8チームが総当たりで激突しました。運営上、個人戦予選リーグやA級トーナメント1・2回戦20～25分切れ負け制とせざるを得ませんでした。今年はデジタル秒読み付の対局時計を導入したため、他の対局は持時間15分、後30秒秒読み制で行なうことができました。選手の皆さんには、限られた条件ながら、3局～7局もの対局に臨むことができ、充実した大会になりました。結果は次の通りです。

<団体戦>

- ・優勝 宇部高等学校A
(浦野亘弘、芥川裕哉、見坂卓郎)
- ・準優勝 防府高等学校
(梶山大樹、松本周也、大田晃司)
- ・第3位 下松高等学校
(峰重隆幸、俣野和明、佐伯雄太郎)

<個人戦A級>

- ・優勝 近江徹哉(防府高等学校)

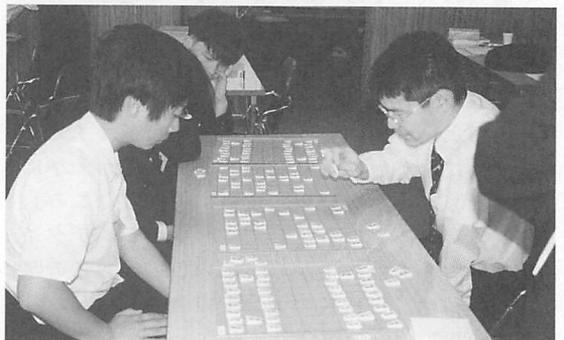
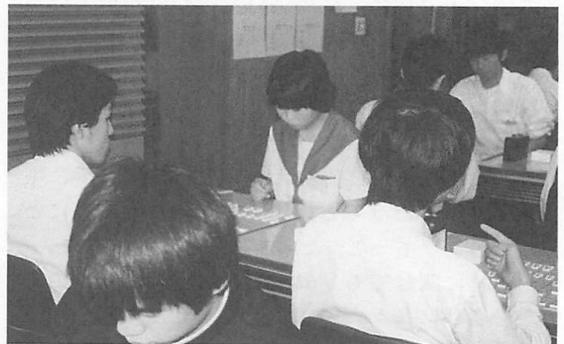
- ・準優勝 藤井泰三(防府商業高等学校)
- ・第3位 馬場裕樹(宇部高等学校)

<個人戦B級>

- ・最優秀 植村 仁(下関西高等学校)

なお、紅一点参加の森奈美子さん(宇部高等学校1年)も、個人戦予選でよく健闘し、1勝を挙げました。また、団体戦と個人戦A級の優勝者は、静岡市で開催された全国大会への出場権を得ました。

本県では、さまざまな方々の、将棋に対する深いご理解、ご協力により、高校生の皆さんの棋力と参加者数は年々盛り上がっています。新教育課程への対応や女子参加生徒への対応等、多くの課題を抱えていますが、皆さんの力で乗り越えて行けると確信しています。



第24回 全国高等学校総合文化祭の記録

【大会テーマ】

空翔る 創造の翼 富士を越え

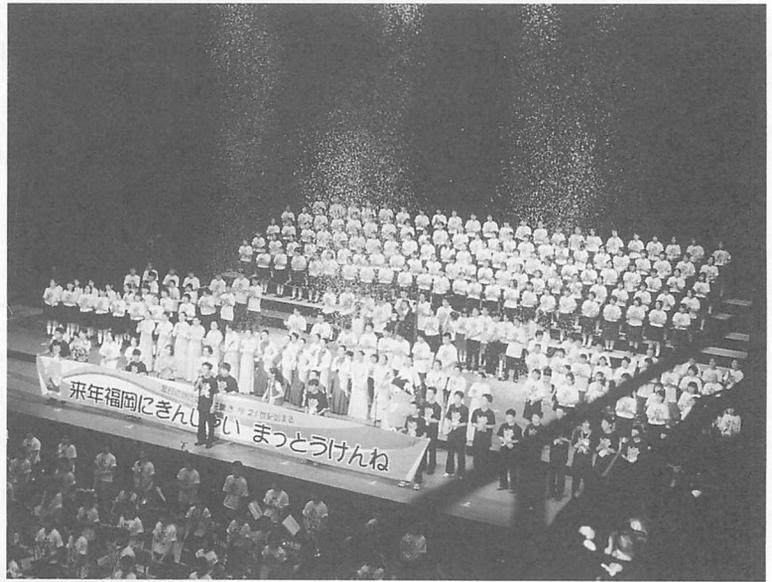
全総文（静岡大会）参加校一覧

部門	高等学校名	参加生徒	備考（演奏曲目・作品名等）
パレード	宇部女子	(12)	（2校合同出演） バトントワリング部門にも出演
	三田尻女子	(15)	
合唱	県立 防府	47	演目「さようなら」、「未来」
吹奏楽	県立 西京	47	演目 バレエ音楽「青銅の騎士」より、「コパカパーナ」
器楽・管弦楽	県立 山口中央	59	演目 歌劇「ウインザーの陽気な女房たち」序曲、「オペラ座の怪人」セレクション
日本音楽	中村女子	12	演目「妖精（エルフ）」
マーチングバンド	山口県 鴻城	41	演目「Chapter II」
バトントワリング	宇部女子	12	演目「日本の調べ」（2校合同演技）
	三田尻女子	15	
美術・工芸	県立 西京	1	絵画「友人像」(F50) 遠藤 秀樹 (3)
	県立 宇部中央	1	絵画「翼」(F50) 東山沙弥香 (3)
	市立 下関商業	1	絵画「生命の存立」(F50) 光末 愛美 (2)
	県立 山口	1	彫刻「Uさんの像」 倉増 淑子 (3)
	宇部女子	1	デザイン「虚妄月暈」 高橋 志穂 (3)
書道	県立 徳山	1	全紙「臨書譜」 永松 友香 (3)
	県立 防府	1	全紙「臨 始平公造像記」 長谷川良純 (3)
	県立 山口	1	全紙「臨 孔子廟堂碑」 有田 陽子 (2)
	高水	1	全紙「居延漢簡臨書」 米本 敬 (2)
写真	県立 宇部工業	3	組写真「勝ちにいけ!!」 鈴川 俊介 (3)
			組写真「警告(WARNING)」 西村 治・鈴川俊介 (3)
			組写真「鉄道員」 藤井 昭光 (2)
	県立 小野田	1	単写真「うまく撮れたよ」 岡 真喜子 (2)
県立 下関西	1	単写真「夏のわすれもの」 蒼下 和敬 (3)	
囲碁	県立 新南陽	1	個人戦（男子） 小野 慎吾 (2)
	県立 防府	1	個人戦（女子） 森重なずな (2)
	県立 水産	1	団体戦（男子） 足達 史招 (3)
	県立 田部	1	団体戦（男子） 工藤悠治郎 (3)
	県立 宇部	1	個人戦（女子） 岡村美奈子 (2)
放送	県立 岩国	1	アナウンス1名 広木 弓子 (3)
	県立 熊毛南	2	アナウンス1名 吉永沙織(3) 朗読1名 福山 桂(3)
	県立 山口	2	アナウンス1名 稲光裕子(3) 朗読1名 安部杏美(2)
	高水	1	朗読 1名 村井 絢(2)
	県立 山口農業	2	オーディオピクチャー 「野菜の主張」
	県立 華陵	3	ビデオメッセージ「教え カブトガニ!!」
将棋	県立 防府	3	男子団体 浦野亘弘(3) 芥川裕哉(2) 見坂卓郎(2)
	県立 宇部	1	男子個人 近江 徹哉(2)
		参加生徒数 267名	総合開会式における生徒代表 宇部女子高等学校3年 太田 智子 (マーチング・バトントワリング部門参加生徒)

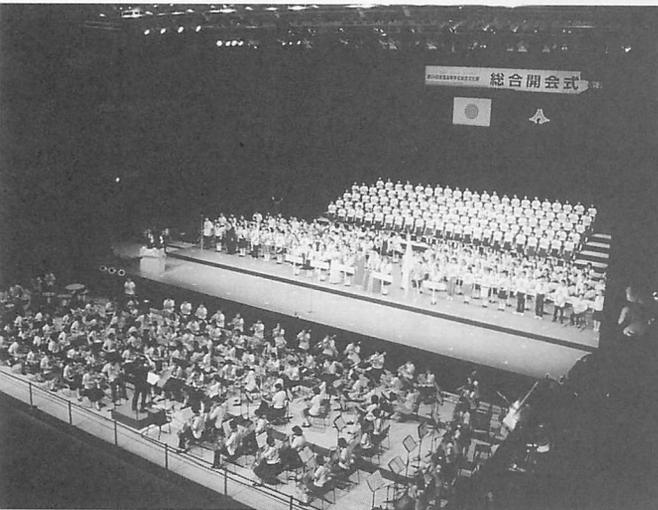


▲市街パレード

フィナーレ▶



▼式典



▼交歓会



器楽・管弦楽部門

会場：静岡市民文化会館

山口中央高等学校

2年 山村綾恵

まず、何よりも私達に「全国総合文化祭へ参加できる。」という大変貴重な機会を与えて下さった方々、多方面で協力して下さいました方に深く感謝したいと思います。

富士のそびえ立つ静岡の地に降り立ったのは8月8日のことでした。初めての全国での舞台。緊張は言うまでもなく、コンクールの直後であるという時間的制約もある中、暑さの最も厳しい夏の日々、私達は毎日自分に厳しく、お互いに励まし合いながら一歩でも音楽のレベルを高

めようと練習を重ねました。

そして迎えた本番。一言で表わすと『緊張と共に始まり感動と共に終わった。』と言えるでしょう。満足感、脱力感、安心感、すべての感覚が駆け巡りました。短くもあり、長くもあった15分間でした。

また、他校の演奏を聞き、全国には自分達と同じ目標を持ってがんばっている人が大勢いると実感でき、大変良かったです。

素晴らしい音楽を肌で感じられた事は、これから音楽を続けていく中で間違いなく大きな糧となることでしょう。ありがとうございました。



▲山口中央高等学校

合唱部門

会場：アクトシティ浜松

防府高等学校

2年 梅山 里奈

山口県代表として、私達防府高等学校は、静岡県で開催された全国高等学校総合文化祭に参加しました。学校の代表として、また県の代表として、半端な気持ちでこの大会に臨むことは許されないことです。部室内に緊張した雰囲気が漂い始め、私達は毎日必死で練習を重ねました。そして、いつの頃からか、部員一人一人の間に「絆」というものが生まれてきたのです。

本番当日、輝くライトを浴びステージに立ちました。自分と仲間を信じ、悔いの残らないように精一杯歌いました。歌い終わって、数分間のステージでしたが、大きな拍手をいただき充実感と喜びで一杯になりました。

私達はこの文化祭を通じて、新たな合唱のすばらしさを感じました。また、静岡のスタッフの方々、御支援をいただいた皆様のおかげで、貴重な体験をすることができ、感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。



▲防府高等学校

吹奏楽部門

会場：グランシップ

西京高等学校

吹奏楽部部長 齊藤真理子

私たち、西京高校吹奏楽部は平成12年8月に静岡県で開催された、第24回全国高等学校総合文化祭に参加させていただきました。吹奏楽部門は7日と8日の2日間で、私達は2日目の8日に演奏しました。

8月7日、バスで静岡に向け出発しました。約半日かけてのバスでの長旅、最初はにぎやかだったバスの中も、進むにつれ段々静かになってきました。しかし、静岡県に突入すると、その頃にはみんなの元気復活！「富士山見えるかねえ。」など口々に話しだし、あっという間に元のにぎやかな車内に逆戻り。そんな元気な部員たちは次の日も長旅の疲れなんてみせず、朝から練習に励んでいました。練習後、演奏をする会場のグランシップへ移動し、その大きさに驚きました。それと同時に「全国の舞台」という緊張がこみあげてきました。本番前、舞台袖で埼玉栄高等学校の演奏を聴きながら、その上

手に圧倒され、緊張はピークに達し、不安も襲ってきましたが、「自分たちの力を出し切って山口県代表として恥じない演奏をしよう。」という思いを胸に、いざステージへと上がりました。最初に「青銅の騎士」を演奏し、次に「コパカバーナ」を演奏しました。この「コパカバーナ」はパーカッションから始まり、フルート・オーボエが入ります。フルート・オーボエのスタンドプレーが終わると、会場から拍手がおこりました。それがなぜかとてもうれしくて、涙が出そうになったのを覚えています。演奏後、達成感からか、みんなとてもいい顔をしていました。

今回この文化祭に参加できたこと、全国の舞台を体感できたこと、本当にうれしく思います。この貴重な体験を、これからの部活動に役立てていきたいです。最後に総文祭に参加するにあたり、御協力・御支援くださった皆様方に心より感謝しております。本当にありがとうございました。



▲西京高等学校

マーチングバンド・バトントワリング部門

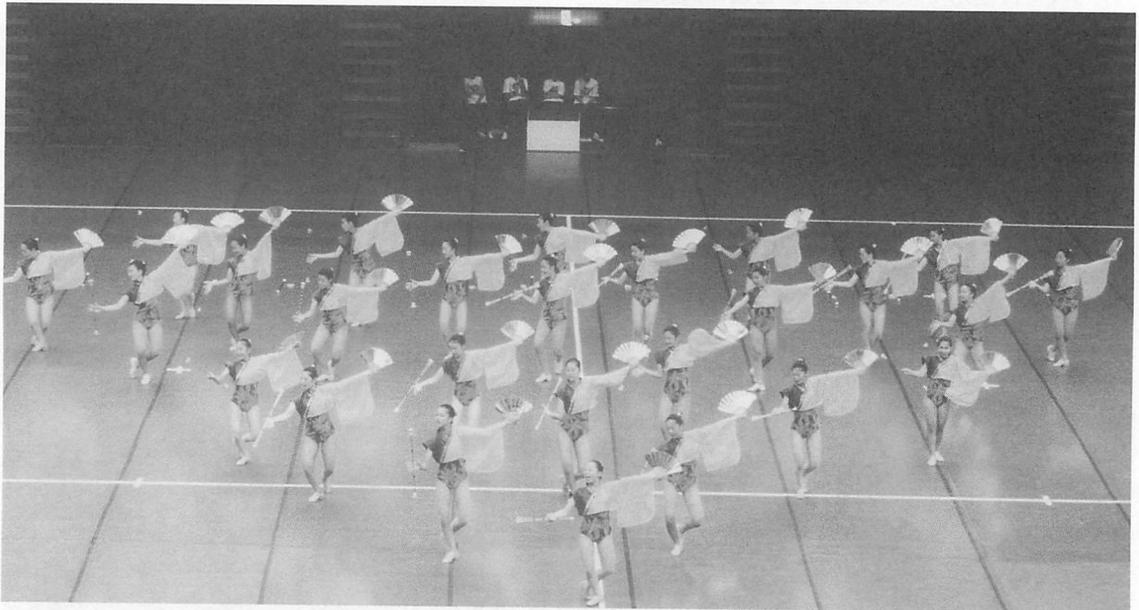
会場：浜松アリーナ

第24回全国高校総合文化祭は8月5日（土）～8月6日（日）の2日間静岡県で開催されました。8月5日には16時30分から静岡市役所前から大和証券静岡支店前までパレードを行いました。山口県からはブラスバンドが出場しなかったため、宇部女子高校・三田尻女子高校のバトントワリングを愛媛県立大洲高等学校のブラスバンドの演奏でパレードを行いました。沿道には高文連会長の西田昇先生をはじめ山口県関係の先生方の応援を受け、素晴らしい演奏・演技を披露することができました。翌8月6日は浜松市にある浜松アリーナで部門の発表会が行われ、マーチングバンドには山口県鴻城高等学校が「Chapter II」の曲によって、フロアいっぱいの演奏・演技を行いました。バトントワリン

グには本年も山口県合同チームとして「三田尻女子高等学校・宇部女子高等学校」の2校で出場し、「日本の調べ」の曲によって華麗な演技で会場を沸かせました。

※バトン部 保護者 馬場久美子

バトンに子供と私が出逢って3年が過ぎます。私達にとってバトンは全く知らない世界でした。はじめて子供がバトンをする姿を見たのは一年生の時、広島で行われた中国大会でした。ただ失敗をしない様にドキドキして観ていたことを思い出します。二年生の夏は山形県で行なわれた「全総文祭」でした。練習のため、心配をするほど体重も減りました。今年の夏の静岡大会には副キャプテンとして出場しました。



▲宇部女子・三田尻女子高校合同チーム

この日のために4月から講習や合宿をしてがんばっている娘を応援したく、家族で観に行くことにしました。大会当日、会場に行ってみると、全国から集まった高校生と応援の保護者、地元のボランティアの高校生で一杯でした。外では出番を待ってリハーサルをする生徒達、演技を終えて記念写真を撮る生徒達がいて、会場に着くと同時にそれを見た私達は急に緊張しました。会場に入ると観客席はほぼ満席でした。山口県合同チームの出番まで、他の出演校の演奏・演技を見ました。どの学校も一生懸命で、心を一つにしてがんばっている姿を見て感動しました。山口県合同チームとして出場したが、高校を越えて心を一つにすることは、技術だけでなく大変なことだと思いました。バトンと扇子を使い、リズムに乗り、はつらつと笑顔で演技する娘達の姿を見て感動したと同時に、三年間がんばって来て本当に良かったと思いました。

演技が終わった後、記念撮影の場所に行ってみると、どの子供達も充実感にあふれた顔をしていました。親の私達も同じ雰囲気を感じて、子供の成長を見ることができたことをとても嬉しく思います。全国総合文化祭を経験したことも良かったことですが、練習の中で、お互いが切磋琢磨した経験が一番大切なことだと思いました。

『マーチングの部に参加して』

山口県鴻城高等学校 熊谷 朋恵

私達吹奏楽部は、8月6日に静岡で行われた全国総合文化祭に出場させていただきました。中国大会は何度も経験しましたが、初めての全国の舞台での演奏は部員全員が緊張していました。毎日の練習の取り組み方も少しずつ変わっていったと思います。

私自身、静岡で演奏することが楽しみな反面、不安で自分の演奏に自信がもてるまで頑張ろうと、毎日毎日これでもかこれでもかというくらい頑張りました。静岡に出発する前に吹奏楽コンクールの県大会があったということもありましたが、ずっと皆が緊張し続けていました。

大きな会場でつぶされそうになる自分に、「こんなに練習してきたんだ」と勇気づけながら一生懸命自分達の演奏をしました。部員全員が一丸となり、すばらしい演奏ができたと思いました。皆が心の底から自分達の演奏を自慢できると感じた瞬間でした。

また、全国レベルの多くの演奏を見て、自分達にないものを感じることもできました。多くのもを見たり、聞いたりして私は多くの財産を得た様に思いました。これから、もっと部のレベルを上げていく上で役立つと思ったことはどんどん進めていこうと思いました。



▲山口県鴻城高等学校

日本音楽部門

会場：沼津市民文化センター



中村女子高等学校

3年 竹本倫子

私達中村女子高等学校は、8月6、7日静岡県沼津市で開催され

中村女子高等学校 3年 齊藤恵理香
静岡は山口より空気がカラッとしていて、八月の暑さというのに過ごしやすかった。早起きしホテルの窓を開けると、日本一の富士山が顔をほころばせて私を迎えてくれた。富士山のパワーは私に、やる気を起こさせてくれた。

文化祭という名ではあるが、全国各地から選ばれた人達が演奏をしに来るわけで、前日のリハーサルでの他校の実力を目のあたりにし、実力の差を見せつけられ、何だか私の存在がちっちゃく思えた。

しかし、二日目の朝、富士山が私に勇気を与えてくれた。当日は、他校の演奏を相変わらず「すごいなー」と思いながら聴いていたが、出番を消極的な気持ちで待つことはなく、むしろリラックスし、自分達の曲を聴かせたい、演奏する姿を見て欲しい、とさえ思った。そして、弾き終えてみると、すごく充足感のある幸せな気分になった。多分仲間もそうだったのだろう、皆、顔が満足感にあふれていた。まさに高校生活最後の夏にふさわしい日であった。

全国高等学校総合文化祭に参加させていただいたことを感謝し、今後の大学生活の糧にしたと思う。

た全国高等学校総合文化祭日本音楽部門に山口県代表として参加させていただきました。部員13名という少人数での参加です。しかも二年生から入った部員がほとんどで、琴の経験もない者ばかりです。しかし伝統というのか、毎日毎日の練習の結果、山口県代表として全国大会にけることになったのです。

山口県は6日の一番最後の演奏でしたから、他校の演奏をよく聴くことができました。まず驚かされたことは演奏の素晴らしさはさることながら人数の多さ、25名もの団体がひしめきあっているのです。山口県はその半分での演奏ですから、スケールの面で既に負けているのです。後は丁寧にミスなく弾くことでカバーするほかありません。いざステージに上がると、あれほど緊張していた部員が落ち着いて演奏することができ、終えた後の安堵感といったら何とも言えないものがありました。

全国レベルは高い。山口県のレベルは決して高いとはいえませんが、毎日の努力は「点滴石を穿つ」とも言われています。いつか後輩が国立劇場で演奏できることを願い筆をおきたいと思います。全国大会に出場させていただきありがとうございました。

美術・工芸部門

会場：静岡県立美術館

理事長 平田博英
(岩国工業高等学校教諭)



今回参加した5名のみなさんから、感想をいただいています。全国高総文祭に参加したそれぞれの思いを伝えます。

出品作品 『友人像』 絵画

西京高等学校 3年 遠藤秀樹

私は美術・工芸部門の会場に行き、まず多様な表現に驚きました。ひとつずつ見て行くうちに、人それぞれ自分なりの表現力を持っているのだと実感しました。芸術でいう上手い下手とは、自分なりの表現で誰かを惹き付けるのが上手いのか下手なのかということであって、技術だけの問題ではないということがわかりました。

出品作品 『翼』 絵画

宇部中央高等学校 3年 東山沙弥香

私が静岡で感じたことは、やはりレベルの高さであるが、それ以上に高校生らしい作品のパワーに圧倒された。若さには力があると思う。熟達し大成された作品の持つ魅力とは違う「力」を感じる。どの作品も作者が「これぞ！」と作ったものなのだから、パワーを感じるのは当然なのかも知れない。そんな作品ばかりだったので、私は大変ワクワクすることができた。機会があれば、また行ってみたい。

出品作品 『生命の存在』 絵画

下関商業高等学校 2年 光末愛美

昨年の夏、静岡で開催された高校総合文化祭に参加した私は、大きな衝撃をうけました。初

めて見る全国のレベルの高さに圧倒され、自分の実力がまだまだ未熟なのだという事を思い知らされたのです。

私はこの経験をバネに、今まで以上に努力をし、成長していけたらと思います。

出品作品 『Uさんの像』 彫塑

山口高等学校 3年 倉増淑子

今大会を通して、全国の高校生の様々な個性や感情、価値観に触れることができ、とても勉強になりました。技術面はもとより、ものの観方や感じ方が決して一つではないことなど、新たな発見が多くあり、視野が広がりました。今回の貴重な体験を、今後の生活の中にしっかりと生かしていこうと思います。

出品作品 『虚妄月暈』 デザイン

宇部女子高等学校 3年 高橋志穂

私は全国総文祭に参加できたことで、たくさんの感動を味わうことができました。全国から集まった作品や舞台発表は、妥協や甘えが一切ないものでした。

また、総合開会式の後、出口で「ありがとうございました」の声がたくさん響いていたのが印象的で、感動を支えていたのは、現地の高校生のみなんだことに気付きました。

2001年は、海を挟んだ隣県、福岡県で全国総文祭が行われます。もし可能なら、ぜひ、会場に足を運んでみてください。

書道部門

会場：クリエート浜松

徳山高等学校

3年 永松友香

私は、この全国総合文化祭において書に対する感じ方や考え方を換えられる大変良い機会になったと思いました。まず、初日に行われた交流会では、340人が30のグループに分かれ、凧に寄せ書きをするという行事が行われました。私は予めその寄せ書きに書く言葉を考え、前日からイメージトレーニングを幾度か行い、それに臨みました。しかし、思っていたよりも周囲の注目によって今までにない緊張に襲われ、手が震え、字が震えうまく書けなくて自分自身の未熟さにショックを受けました。それに比べ周りの人の自信ある書きぶりには、本当に驚かされました。この経験により自分には“できる”という自信がなかった事に気付いたのです。行事を盛り上げてくれた静岡の高校生には書に対する意気込みや自信が満ち溢

れていました。この全国総文に参加して、初めて味わった経験を通して、書に対する視野が広がったと思います。これからも、何か壁に突き当たった時でも、自分の個性に自信を持って進んでいきたいと思っています。

防府高等学校

3年 長谷川良純

一堂に会した全国の高校生の作品はどれも大変個性的で、高校生らしさが強く感じられた。何せ全国大会とあり、その高度な技術がレベルの高さを示して

いたが、それ以上に、表現力の豊かさ、又そこから窺われる作者の書に対する熱い想いに心を揺さぶられた。表現の多様性に於いては、こんな表現もあるのか、といった感情を抱かせる作品も少なからずあったが、視点を変えると、そこが高校生の感性の鋭さ、豊かさなのだと思う。納得し、今後の書道芸術の新たな風向きを感じた。古典の解釈をする、或いは創作に取り組む、それとも又、普段と違う角度から書にアプローチを試みる場合も、現時点での自分自身を存分に表現しきることが如何に難しく、重要であるかを、此の度、全国の作品を目のあたりにして実感した。書道は奥が深い。だから常に探究し、挑戦し、同時に自分のしてきたこと、つまりその足跡を確認しながら、精神を養い、前進していかななくてはいけないものだと痛感している。



高水高等学校

2年 米本 敬

全国大会に臨んで最も勉強になったことは、全国の優秀な作品を身近に見ることができたことです。いろいろな技法を駆使し、文字の変化、また構成の変化と、自分が想像していなかったことがたくさんありました。

自分の作品の前に立つと、少し恥ずかしい気持ちになりました。しかし、その前で全国の高校生や先生方が立ち止まり、いろいろ話し合っているところを見ると、だんだん自身のようなものが湧いてきました。

講評会では、270点あまりの作品から自分の作品が選ばれ、先生方からすばらしい評価をしていただきました。そのことで書道に対する意欲が高まってきました。

また、全国の仲間といっしょになって作品を批評し合ったことなど大変勉強になりました。自分と同じ世代なので話し易く、お互いの考え方や見方を理解し合うことができました。

山口高等学校

2年 有田陽子

総文祭に参加できて本当に良かったと思います。全国の人達の作品を見ることで、私の中で書きたいと思うものがどんどん広まっていきました。臨書作品にも知っている書や、初めて見る書、また工夫の凝らされた創作や合作、と見ていただけでも、とてもおもしろく勉強になることばかりでした。

交流会もどんなものになるのだろう…と少し緊張しましたが、凧に書いていくみんなの筆使いがなめらかで、見とれてしまいました。凧はあまり揚がらなかったけれど、十分楽しかったです。交流会で同じ班の人達にもらった作品も、普段友達の作品をもらうことなんてなかなかできないから、うれしかったです。

講評会の後半は多くの人達が書道について語っていて、私は何も言えなかったけれど聞くだけでも満足でした。

この総文でますます書道に興味が出て、これからさらに多くの字を学び、書いたことのない字にもどんどん挑戦していきたいです。



写真部門

会場：静岡市民文化会館

宇部工業高等学校

3年 鈴川俊介

平成12年の夏、静岡県で開催された第24回全国高等学校総合文化祭に参加することになり、顧問の先生と、宇部工業から参加していたもう2人の計4人で静岡県に行きました。

静岡に着くとまず、ホテルに行き荷物を預け、写真が展示してある静岡市民文化会館に向かいました。私の作品が全総文候補作品のひとつに選ばれたとき、なかなか実感が湧きませんでした。展示会場に入って全国の高校生の作品を見ていて、その中に自分の作品を見つけたとき、本当に全総文に出展したんだという実感が湧きました。

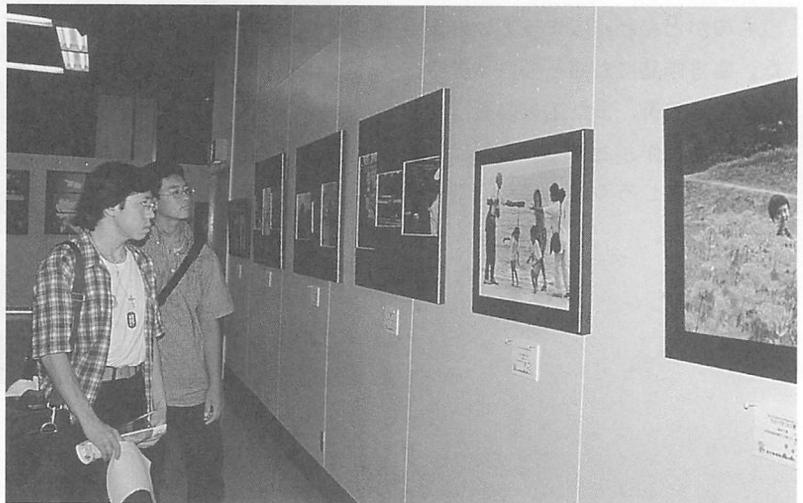
その後、展示会場を出た私達は、静岡駅の周りを歩いた後、ホテルに戻りました。

次の日、静岡葵博を会場とした撮影会が行われました。この撮影会では、いくつかのグループに分かれ、そのグループごとに講師の方が撮影のアドバイスをするというものでした。1グループ20人程度で、そのグループに高校生のモデルが1人ずつ付きました。この撮影会に参加して写真を撮っている生徒を見ていると、同じモデルを撮っているのにみんな違った感じの写真になるんだろうなと思い、写真の面白さを再確認できました。

なぜなら、写真を撮っていて、多くの人数で同じ被写体を同じ時に撮るといことがあまり無いです。この撮影会に参加した人の撮った写した部員の写真と見比べてみると、全く違った写真でした。この、同じ人を撮っても撮る人が違えば、違う感じの写真が撮れるということは、写真を撮っている楽しみの一つだと思います。この撮影会のように、指導していただきながら撮影するという機会は少ないので、私にとってとても良い勉強になりました。

私は、この全総文に参加できたことで、いろいろなことを学び、また感じる事ができ、高校生活最後の夏を高校生活最高の夏にできたと思います。この大会で私達の作品は選ばれませんでした。次は選ばれるように後輩に努力してもらいたいと思います。

最後に、この全総文に参加するに当たり、大変お世話になった方々に、心からお礼を申し上げます。



囲碁部門

会場：グランシップ

理事長 **安藤 公隆**
(下関工業高等学校教諭)

第24回全国高校総文祭囲碁部門第13回大会は平成12年8月6日(月)～7日(火)静岡県静岡市グランシップにて開催されました。団体戦は各都道府県から選抜された男子2名、女子1名のチーム編成で42チーム、個人戦は男女各1名ずつで、男子42名、女子40名合計208名の参加がありました。

初日は開会式後4回戦を行い、2日目は残りの2回戦を行う、2日間の6回戦です。男女個人戦、団体戦ともに同時進行、オール互選のスイス方式という競技方法で行われました。

山口県からは、個人戦に小野慎吾(新南陽高校)、森重なずな(防府高校)、団体戦に足立史招(水産高校)、工藤悠治郎(田部高校)、岡村美奈子(宇部高校)の5名が参加しました。試合は、勝者同士を組み合わせていきますので星の潰し合いになります。対局時計を全員使用しますので、非常に厳しいものがありました。

戦績は次の通りです。

<個人戦>

小野 慎吾 (六段)	4勝2敗	6位
森重なずな (4級)	3勝3敗	20位

<団体戦>

足立 史招 (四段)	} 2勝4敗 30位
工藤悠治郎 (四段)	
岡村美奈子 (3級)	

団体選は30位とやや奮いませんでした。山口県は個人戦を主力に考えていますので個人戦は比較的良い成績を残しています。しかし、全国的にみると個人戦よりも団体戦に主力を置く県が増えてきましたので、山口県も今後、主力をどちらに置くかが課題です。森重さんの対戦相手は上位者なのに気迫で負けないでよく戦いました。小野君は巧みな打ち回しを見せましたが、あと一步のところまで入賞を逃しました。

囲碁は世界に誇れる知的なゲームです。ゲームといっても人為的なルールが極端に少なく、自然の摂理に似て、文字通り無限の変化の可能性の中で、自分を主張できる哲学的なゲームです。この素晴らしい囲碁を通して日本中に友達を作り、さらに同好の輪を広げていくことを期待しています。



放送部門

会場：富士市文化会館ロゼシアター

理事長 青木幸子
(山口農業高等学校顧問)

OBは来るわ、あっちこっちで合同練習はスタートするわ、と、ここ最近山口県軍団は、全国においても、ちょっとした注目県になりつつあるのです。ホントです。なんせ、メンバーが個性的だし、(毎年入れ替わりがあるにもかかわらず) エネルギッシュで大声で、そしてユーモアがいっぱいだから、練習しているか、大笑いしているかの、モードが2つしかないっていうのも若干問題ですが。でも、もうひとつ忘れていました。ここ数年、軍団のメンバーはメッチャ本番に強〜い。さっきまで、ほんの数分前まで「センサーどうしょうーあがってしまいそうー、また、トイレ行ってきていいですかー。」って言った人が、舞台上上がると、あー不思議の変身ぶりなのです。「まいった」。毎年引率の先生方から出るはこの言葉なのです。

「本番つよいのよねえー」を今年の静岡大会でも大いに発揮してくれたのです。富士山を拝めて、白糸の滝に行くと大騒ぎした後、ある者達は、ひどい宿で、オフロは水プロで、泣きを見たりと、けっこういろいろあったものの、たえず遠くにそびえる富士がパワーアップしてくれていたせいか、カゼをひくこともなく、みんなウルトラハイテンションで本番に臨んだわけです。これだけテンションあがってれば、いいものができるわけないってとこで、まあ1日目のアナウンス、朗読、今までNコンの時ですら聞いたことないヨっていいくらいの上手さで、ちょっと会場を圧倒してしまいました。ギャラリーは正直ですからやはり、アナウンスも朗読も賞はいっぱいゲット。

優秀賞 アナウンス 山口高校 稲光裕子
特別賞 " 岩国高校 広木弓子
特別賞 朗 読 熊毛南高校 福山 桂
本人達は、ひょうひょうと「マイペースでやったので…」ゲットできたなんてサラサラ思っていなかったらしいのですが…さすがの一言。

続く2日目のビデオメッセージ・オーディオピクチャーも着眼点の良さでギャラリーをしつかりひきつけることに成功したわけです。オーディオピクチャーにいたっては、夕方6時過ぎっていう、大そう遅めにもかかわらず、いっばいのギャラリーが「野菜の主張みてからかえろうよっ」って言ってくれた。ホントウにうれしかったものです。卒業生で、松山から前日夜明け2時発でかけつけた山農OB重本君も大満足。ギャラリーの大笑いに彼はしてやっつかりの御満悦。弟子として大いにがんばった後輩もなんだか肩の荷がおりてホッとした様子。そしてみごと優秀賞をゲット。

優秀賞 (これは上位3校に与えられるもの)
山口農業高校 オーディオピクチャー部門
「野菜の主張」

あまりのうれしさに舞い上がった山口軍団、なーんと、静岡大会記念ののぼりをもってかえたのです。全くうー。



将棋部門

会場：静岡商工会議所会館

常任理事 **尾崎明弘**
(宇部高等学校教諭)

常任理事 **岡茂樹**
(防府高等学校教諭)

今年の全国高校総合文化祭は静岡県での開催でした。将棋部門には男子団体45チーム、女子団体28チーム、男子個人46人、女子個人88人の計351人が参加し、去年の山形大会を上回る規模での大会になりました。本県からは男子団体の宇部高校チーム(浦野亘弘・芥川裕哉・見坂卓郎)と男子個人の近江徹哉君(防府高校)が参加しました。

この大会は近年、本県選手の活躍が目立っています。今年も男子団体・個人ともに上位入賞が期待され、選手も「優勝をめざす」という意気込みで試合に臨みました。個人の近江君は春の全国新人大会で3位入賞した実績もあり、さすがに3回戦まで危なげなく勝ち上がりました。残念ながら準々決勝で敗退し、ベスト8(記録上は第4位)に終わりましたが、全国トップクラスの実力は発揮しました。しかし団体戦の宇部高校はまさかの1回戦敗退、大きな舞台で実力を発揮することの難しさを実感させられる結果となりました。

この大会の素晴らしいところは、試合のときは勝利をめざしてぎりぎりの戦いをしても、試合が終われば敵味方なくその試合内容を検討し、お互いの健闘を称えあうところにあります。宿舎に帰れば各県の選手が入り混じって、一晩中将棋を指して交流し、将棋を通じての友情が大きく広がる大会でもあります。

また、本年度の学生将棋選手権大会(大学生)において、本県出身の藤井君・金築君が敵味方に分かれて団体戦の優勝を争い、佐竹さんが女子個人で準優勝しました。このように本県からはこの大会をきっかけにその後大活躍する選手を輩出しており、本県の高校生の将棋のレベルは確実に向上しているものと思われます。

第24回全国高等学校総合文化祭将棋部門が、8月7・8日の2日間、静岡市で行われた。静岡目前で地震発生。新幹線の徐行運転のハプニングとなり、夏空がすっかり暮れての静岡駅着に「遠くまで勝負に来たんだなあ。」と闘志を新たにした選手達だった。

山口県選手の戦績は次の通りです。

＜男子団体＞

宇部高校(浦野亘弘・芥川裕哉・見坂卓郎)

1回戦 泰星(福岡県) …… 1勝2敗 負け

＜男子個人＞ 近江徹哉(防府高校) ベスト8

1回戦 舟木真也(富山高校) …… 勝ち

2回戦 佐々木浩(守谷高校) …… 勝ち

3回戦 伊藤真悟(京都高校) …… 勝ち

4回戦 豊田宜弥(千葉大宮高校) …… 負け

男子団体は実力を発揮できず残念な結果だったが、個人の近江君は正確で深い読みと鋭い寄せで強豪を倒し、ベスト8入賞を果たした。さらに上を望める実力ではあるが、流石に全国大会は厳しい。宇部・防府を脅かす県内の地盤を固め、山口県のレベル向上が全国大会活躍には必要であろう。また、男子強豪を抱える山口県の女子不参加は、全国的に女子選手の参加が増える中、肩身が狭くひんしゆくものだった。女子への普及は大きな課題として残った。



山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

(1)

番号	学校 \ 事業	ピアノ	マリンバ	フルート	胡弓 トランペット	尺八と箏 オベレッタ	交響楽団	演劇	金管合奏
1	安下庄	63				平7	平4平10		
2	久賀	63					平3	平10	
3	岩国								平1
4	岩国総合						平11		平1
5	岩国商業			平3				62	
6	岩国工業						平2	平6平8	
7	坂上			63	平11		平5	平3	
8	広瀬			63					
9	高森						平2		
10	柳井						平7	平11	
11	柳井商業						平11		
12	柳井工業							平1平4平11	
13	熊毛南	63					平6	平12	
14	田布施農業						平3	平5	
15	田布施工業								
16	光	63					平8		
17	光丘						平8平11		
18	熊毛北						平2	63平7	
19	下松	63			平12	平7			
20	華陵	63					平8	平1	
21	下松工業						平1		
22	徳山		定平4		定平10	定平8		平12	
23	徳山北		63				平4平11	平8	
24	徳山商業		平5	63				平3	
25	徳山工業							平4平7	平1
26	鹿野		平3		平10		平9	平1	
27	新南陽	63						平5	
28	南陽工業		平1				62		
29	佐波			63		平7			
30	防府								
31	防府西						平10		平1
32	防府商業		定63				平12	平6	平1
33	山口		定62				平2		
34	山口中央	63	平12		平10	※			
35	西京	62					平4	平7	
36	山口農業						平5	平3	
37	宇部	63							
38	宇部中央		定平1				平10	63	
39	宇部西							平10	
40	宇部商業			63			62平6	平3	
41	宇部工業		※	平2			平8		
42	小野田		定63						
43	小野田工業		定63					平4	
44	厚狭			平1				平9	
45	美祿	62			平9		平4	平2	
46	大嶺		平4					63※	
47	美祿工業						63	平10	

ピアノ……………弘中 孝
マリンバ……………水野与旨久
フルート……………西田直孝トリオ
トランペット…田宮堅二

胡弓……………姜建華・楊宝元
尺八と箏……………中村明一、八木美知依
オベレッタ…木月京子
交響楽団……………山口県交響楽団

演劇……………のんた・宇部芸術座・海峽座
金管合奏……………東京金管五重奏団
(注) <62~平12………実施年度>
<※印……………平成13年度実施予定>

山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

(2)

番号	学校 \ 事業	ピアノ	マリンバ	フルート	胡弓 トランペット	尺八と箏 オベレッタ	交響楽団	演 劇	金管合奏
48	田 部						平1※		
49	西 市						63		
50	豊 浦								
51	長 府								平1
52	下 関 西								
53	下 関 南								
54	下 関 第 一							平 5	
55	下関中央工業						平12	平 6	
56	下 関 工 業	62						平 2	
57	響		平 5				平 1		
58	豊 北	62					平 3		
59	日 置 農 業	63	平 5			平 9		平 2※	
60	大 津	63					平12	平 5	
61	水 産						平12		
62	萩	63					平 3	平 6	
63	萩 商 業	63					平 7	平 2 平12	
64	萩 工 業						平 6	平 4 平 9	
65	徳 佐			分 63			63平10	※	
66	奈 古				平11		平 1 平 9		
67	盲	63	平 3			平 8 平10	平 7	平 1	
68	聾								
69	岩国養護		平 3※					平10	
70	田布施養護		平 6				62		
71	徳山養護		平11	平 1					
72	周南養護								
73	防府養護	62	平 3	63	平12				
74	山口養護								
75	宇部養護		63平 5				平 1 平 9		
76	下関養護		平 2 平 6						
77	豊浦養護		平11			※			
78	萩 養 護		平 6						
79	下 関 商 業								
80	高 水							62	
81	柳井学園		平 6					63	
82	聖 光						平 2		
83	山口県桜ヶ丘								
84	三田尻女子							平 7 平 9	
85	多々良学園								
86	中村女子	63					平 2 平 5	平11	
87	野田学園	63							
88	山口県鴻城						平10	平12	
89	宇部鴻城						平 7	平 9	
90	宇部女子								
91	美祢中央								
92	香 川						平 1 平 5	平11	
93	サ ビ エ ル								
94	早 輦								
95	下関短期大学付属	62 63	平 4			平 7		平 8	
96	長 門						平 6		
97	萩光塩学園								

(注) <62~平12……実施年度><※印……平成13年度実施予定>

《自主事業》 山口県交響楽団演奏会

防府商業高等学校

3年 河口信二郎

防府商業高校では、文化公演会として10月27日に、山口県交響楽団の演奏会が催された。この楽団は、防府商業高校吹奏楽部の指導者である安部先生が常任指揮者であったり、他の学校の先生方も演奏者として出演されるということもあり、私はこの日を心待ちにしていた。

演奏曲目は「カルメン」や「白鳥の湖」など、タイトルを知らずとも、曲を聴けば誰もが一度は耳にしたことのある曲ばかりで、私にとってはばかりでなく、他の生徒にとっても、きっと心に残るものになったのではないかなと思う。

曲の合間には、楽器紹介や演奏曲・作曲家の解説など、演奏会をより楽しく、分かり易くする工夫をして下さっていた。また、生徒や先生が指揮者の体験をしてみるアトラクションも行われ、普段あまり聴くことのないクラシック音楽を、とても身近かに感じる事が出来たのではないかなと思う。

また、防府商業高校には弦楽部がないが私はそちらにも関心があった。吹奏楽には吹奏楽の良さがあると思う。しかし、私は管弦楽にも魅力を感じている。自分がしていないことだから、ということもあるが、弦楽器が加わることによって、さらに音楽が感動的になっている気がするのだ。

しかし、楽器の種類が増えるほど、演奏者が増えるほど、曲を一つにまとめることは難しくなっていく。だからこそ、曲が完成したときの達成感や様々な思いは言葉にならないものがあるのだと思う。そしてそれは、奏でられるメロディによって鑑賞する人々の心に響いていくのだろう。

今日の演奏会はそのような音楽の素晴らしさを改めて感じさせてくれるものだった。そして、私はこのことを胸に、吹奏楽部員として、演奏する側、さらに鑑賞する側としても、一生涯、音楽に携わって生きていきたいと思っています。





防府養護学校

高等部1年 村上佐智代

とてもきれいな音で心にじーんとききました。またトランペットを聞くことがあればまた聞きた

いです。そして私もいつかトランペットをふいてみたいです。

下松高等学校

1年 林 陽子

私の感覚の中でピアノはやわらかい感じの音で、トランペットは“パン”という感じのはりのある音だと思っていたので最初、聞く前は絶対音が合わないだろうと思っていたら、あの絶妙なピッタリ感にびっくりしました。ピアノってこんなに大きくて激しい音が出せるんだと思ったり、トランペットのあのやわらかな音を聞いて私の感覚はひっくり返されてしまいました。

これからもたくさんの人に私のような驚きを与えてあげて下さい。

《自主事業》巡回演劇公演

劇団海峡座『にんじん少年の秘密』を観て

萩商業高等学校

わたしは「にんじん少年の秘密」の登場人物の中で「アンネット」が一番印象に残りました。「アンネット」が訪問しなければ、「にんじん」はずっと孤独だったと思います。

それから抜け出すチャンスを「アンネット」は「にんじん」に与え「ルピック」は信じてくれました。「ルピック夫人」も最後はとても悲しそうでした。わたしは「家族愛」を感じる事が出来ました。どうして「にんじん」と呼ばれているか不思議だったけど、髪の毛の色で誰からも本名で呼ばれたことがないとは思いませんでした。私の場合、髪の毛の色は黒いからそんなので呼ばれることになります。何だか悲しい気持ちになります。「にんじん」は「アンネット」がやって来た時、「にんじん」って呼んでと言いました。どんな気持ちで言ったの

かなあと思いました。「ルピック」が本名で呼んでくれた時とてもうれしそうでした。

自分の思っている事を言葉にすることは大切な事だと思いました。そして初めに詩を朗読され、それにあわせてダンスをされているのがすごかったです。わたしは「へび」がすごく気に入りました。それにTVだと1シーンずつでセリフをそんなに覚えなくていいけれど、この作品はずっと登場していなければならぬのに演技しながらセリフとはすごいなあと思いました。90周年の良い思い出が出来たと思います。



舞台芸術ふれあい教室 (文化庁主催)

藤原歌劇団／オペラ「カルメン」

9月27日／熊毛北高校



第2回 高校生文芸道場

中国大会 (島根大会)



11月8日／島根県立石西県民文化会館小ホール
山口県より生徒8名 (萩高校) 教職員4名参加

第15回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募状況一覧

	県名	学校数	小説	文芸評論	随筆	詩	短歌	俳句	文芸部誌	応募点数
1	北海道	2	2(7)				3(3)			5(10)
2	青森	17	6(7)		3(41)	66(199)	80(1,816)	92(1,340)		247(3,403)
3	岩手	20	17(110)	1(4)	8(65)	36(605)	229(1,885)	165(4,513)	5(5)	461(7,187)
4	宮城	8	10(10)			13(13)	3(3)		1(1)	27(27)
5	秋田	15	1(34)			22(129)	72(120)	93(155)	3(3)	191(441)
6	山形	1				2(2)				2(2)
7	福島	5	5(5)		6(6)	9(9)	6(6)		4(4)	30(30)
8	茨城	10	5(5)			15(19)	35(83)	48(104)	3(3)	106(214)
9	栃木	3	5(5)				3(3)		1(1)	9(9)
10	群馬	11	12(16)		1(1)	18(40)	37(74)	60(139)	4(4)	132(275)
11	埼玉	10	15(16)		1(1)	24(24)	13(13)	13(13)	4(4)	70(71)
12	千葉	5	3(3)			7(7)	45(45)	48(48)		103(103)
13	東京	19	27(48)	2(2)	25(245)	38(38)	239(239)	18(18)	2(2)	351(592)
14	神奈川	8		4(4)	5(5)	7(7)			2(2)	18(18)
15	山梨	10	3(46)	1(1)	5(14)	3(340)	12(375)	16(702)		40(1,478)
16	新潟	6	6(6)			13(13)	27(28)	5(5)		51(152)
17	富山	4	2(2)		2(2)	20(20)	66(224)	15(15)	2(2)	107(265)
18	石川	1	3(3)			16(16)				19(19)
19	福井	8	5(29)			5(116)	17(180)	25(330)		52(655)
20	長野	4	1(1)		1(1)	4(4)			1(1)	7(7)
21	岐阜	6	7(10)			5(12)			2(2)	14(24)
22	静岡	4	3(6)			3(10)			3(3)	9(19)
23	愛知	3	2(2)		1(1)	39(39)	16(16)	3(3)	2(2)	63(63)
24	三重	4	3(3)		1(1)	12(12)		3(3)		19(19)
25	滋賀	1				16(16)				16(16)
26	京都									0(0)
27	大阪	4	2(2)			1(1)			2(2)	5(5)
28	兵庫	6	2(4)			19(19)	18(18)		2(2)	41(43)
29	奈良	2	2(4)			19(24)	27(42)	75(103)		123(173)
30	和歌山	2				3(3)		3(3)		6(6)
31	鳥取	2	4(4)			3(11)			2(2)	9(17)
32	島根	8	6(35)		7(15)	12(189)		7(7)	2(2)	34(248)
33	岡山	7	6(6)			20(117)	72(248)	39(270)	1(1)	138(642)
34	広島	10	2(35)		2(6)	9(101)	15(311)	12(568)	3(3)	43(1,024)
35	山口	8	18(18)			33(33)	3(3)		4(4)	58(58)
36	徳島	1					3(3)		1(1)	4(4)
37	香川	4	4(4)			1(1)	6(6)		2(2)	13(13)
38	愛媛	2	4(4)			2(2)	17(17)	286(385)	2(2)	311(410)
39	高知	3				3(3)				3(3)
40	福岡	5	5(5)		2(2)	22(22)	21(21)	15(15)	3(3)	68(68)
41	佐賀									0(0)
42	長崎	6	6(7)		1(2)	6(7)		12(12)	1(1)	26(29)
43	熊本	2	2(2)			7(7)			2(2)	11(11)
44	大分	8	3(26)			12(134)	29(121)	29(213)	4(4)	77(498)
45	宮崎	6	3(95)	2		14(66)	18(31)	(6)	1(1)	36(201)
46	鹿児島	1							1(1)	1(1)
47	沖縄	12	5(5)		10(68)	50(119)	117(365)	488(1,048)	3(3)	673(1,608)
	受付点数	284	217(630)	8(13)	81(476)	629(2,549)	1,249(6,339)	1,570(10,018)	75(75)	3,829(20,160)
	応募数総計		630	13	476	2,549	6,399	10,018	75	20,160

※ () は県又は学校段階での応募数を含めた数

第15回全国高等学校文芸コンクール 部門別応募状況一覧

区 分	応募点数	応募者数	学 年 別			男 女 別		応募総数 (選抜前)
	点	人	1	2	3	男	女	
小 説	217 (273)	199 (244)	60 (73)	87 (90)	52 (81)	40 (48)	159 (196)	630 (581)
文芸評論	8 (8)	8 (8)	1 (0)	6 (3)	1 (5)	4 (4)	4 (4)	13 (8)
随 筆 (エッセイ)	81 (76)	81 (72)	31 (33)	26 (24)	24 (15)	8 (20)	73 (52)	476 (170)
詩	629 (484)	400 (313)	144 (62)	169 (147)	87 (104)	80 (43)	320 (270)	2,549 (2,383)
短 歌	1249 (626)	378 (221)	101 (58)	157 (73)	120 (90)	60 (40)	318 (181)	6,399 (3,689)
俳 句	1,570 (916)	479 (340)	190 (125)	167 (101)	122 (114)	129 (99)	350 (241)	10,018 (8,228)
文芸部誌	75 (71)	75 (71)						75 (71)
合 計	3,829 (2,454)	1,620 (1,269)	527 (351)	612 (438)	406 (409)	321 (254)	1,224 (944)	20,160 (15,130)

※数字は事務局受付分、()は昨年度

	年度	都道府県	応募校	応募点数	応募者数	応募総数
第1回	S 61	17	110	890	630	
第2回	S 62	30	202	1,977	1,297	
第3回	S 63	35	210	1,830	1,235	
第4回	H 1	39	235	1,990	1,347	
第5回	H 2	41	240	2,112	1,286	
第6回	H 3	41	269	2,533	1,595	15,842
第7回	H 4	42	282	2,798	1,531	16,370
第8回	H 5	41	290	1,919	1,173	17,512
第9回	H 6	37	271	2,834	1,643	19,143
第10回	H 7	43	293	5,225	2,638	21,214
第11回	H 8	40	278	2,726	1,447	26,898
第12回	H 9	40	294	3,016	1,491	25,846
第13回	H10	41	303	3,147	1,465	19,436
第14回	H11	43	359	2,454	1,269	15,130
第15回	H12	45	284	3,829	1,620	20,160

※応募総数は、各都道府県段階における応募数

第15回全国高等学校文芸コンクール 入賞作品数一覧

区 分	応募点数	応募者数	文部大臣 奨励賞	読売新聞 社賞	最優秀賞	優秀賞	優良賞	入 選 (奨励)賞	合 計
小 説	217 (273)	200 (244)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	4 (3)	6 (5)	5 (6)	16 (15)
文芸評論	8 (8)	8 (8)			0 (0)	1 (0)	1 (1)	2 (1)	4 (2)
随 筆 (エッセイ)	81 (76)	81 (72)			0 (0)	3 (1)	4 (2)	4 (4)	11 (7)
詩	629 (484)	400 (313)		1 (1)	1 (1)	5 (5)	10 (10)	14 (9)	30 (25)
短 歌	1,249 (626)	378 (221)	(1)		1 (1)	5 (4)	10 (10)	13 (15)	29 (30)
俳 句	1,570 (916)	479 (340)	1	(1)	1 (1)	5 (5)	10 (11)	14 (13)	30 (30)
文芸部誌	75 (71)	75 (71)	1 (1)		1 (1)	2 (3)	6 (5)	7 (8)	16 (17)
合 計	3,829 (2,454)	1,621 (1,269)	3 (3)	2 (3)	5 (5)	25 (21)	47 (44)	59 (56)	136 (126)

※ () は昨年度

第15回全国高等学校文芸コンクール 受賞作品 (山口県)

小説部門	優良賞	県立防府高等学校	2年	藤井 梨紗	居場所
詩 部 門	優秀賞	県立柳井高等学校	1年	田中 幸恵	持ち物検査
	入 選	県立宇部高等学校	2年	藪本 勝治	坂道の死骸
文芸部誌	優良賞	県立山口高等学校		文 芸 部	無蓋車

平成12年度 山口県高等学校文化連盟【事業報告】

月	日	事	業	会 場
4	13 20		会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	10 12 23 28	水野与旨久マリンバコンサート 県高校総合文化祭(将棋)	高文連評議員会 全国高等学校文化連盟地区代表者会議、 評議員会	山口中央高校 徳山市 東京都フロラシオン青山 中国新聞社山口支社
6	13 15 16 16~18 18 21 21 21	田宮堅二トランペットコンサート 田宮堅二トランペットコンサート 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭(器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・バトントワリング) 県高校総合文化祭(日本音楽、吟詠剣詩舞) 山口県交響楽団演奏会 山口県交響楽団演奏会	中国地区高文連関係者合同会議	防府養護学校 下松高校 防府市公会堂 防府市公会堂 シンフォニア岩国 大津高校 水産高校 山口市
7	4	平成11年度「高文連」発行		
8	5~9 6 26~27	全国高校総合文化祭 第11回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	全国高等学校文化連盟各専門部会 全国高等学校文化連盟拡大理事会	静岡県 静岡県 東京都 国立劇場
9	20 27	巡回演劇「劇団海峽座」 舞台芸術ふれあい教室(音楽劇)		萩商業高校 熊毛北高校
10	4 4 27 27 28~29 29	巡回演劇「宇部芸術座」 巡回演劇「劇団のんた」 山口県交響楽団演奏会 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭(演劇) 県高校総合文化祭(囲碁)		徳山高校 熊毛南高校 防府商業高校 下関中央工業高校 下関市文化会館 下関工業高校
11	5 7 8 17~19 18	県高校総合文化祭(放送) 第2回高校生芸道場中国ブロック大会 県高校総合文化祭(美術・工芸、書道、写真) 巡回演劇「劇団海峽座」	第1回高文連理事長会	ニューメディアプラザ山口 山口中央高校 島根県 山口市民会館 県鴻城高校
12	7~8 20	第2回高校生芸道場総合大会 平成12年度「高文連会報」発行		東京都
1	25		全国高等学校文化連盟研究大会	佐賀県
2	1 6 8~10 16	第9回全国高等学校文化連盟将棋新人大会	全国高等学校文化連盟理事会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都フロラシオン青山 山口中央高校 別府市 山口中央高校
3	28	第20回器楽管弦楽スプリングコンサート		シンフォニア岩国
<p>【その他】 県高校総合文化祭準備(実行)委員会 総合開会式・音楽関係4部門(防府西高校) 展示関係3部門(山口高校) 日本音楽、吟詠剣詩舞部門(岩国商業高校) 演劇部門(田部高校) 囲碁部門(下関工業高校) 放送部門(山口農業高校) 将棋部門(防府商業高校)</p> <p>----- 主管校において開催</p> <p>各専門部会 ----- 部会長校を中心に開催 各専門部研修会 ----- 県下各地において開催</p>				

山口県高等学校文化連盟 【共催】 第4回やまぐち県民文化祭・第39回山口県吹奏楽コンクール
 第4回やまぐち県民文化祭・第55回山口県合唱コンクール山口県大会
 第24回アンサンブルコンテスト山口県大会

【後援】 第6回山口県盲・聾・養護学校文化祭美術作品展示会
 第13回全日本マーチングフェスティバル山口県大会

平成12年度 山口県高等学校文化連盟会計【決算書】

〔収入の部〕

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要
繰越金	4,026,276	4,026,276	0	
会費	17,757,200 (内訳) 17,570,000 50,000 137,200	17,265,750 (内訳) 17,064,250 68,200 133,300	△ 491,450 (内訳) △ 505,750 18,200 △ 3,900	全日制 350円×48,755人 定時制・盲・聾・養 50円×1,364人 学校負担金 100円×1,333学級
補助金	6,146,400 (内訳) 1,472,000 4,674,400 - -	6,525,860 (内訳) 1,472,000 4,674,400 300,000 79,460	379,460 (内訳) 0 0 300,000 79,460	県総文祭県補助金 全総文祭県補助金 防府市補助金 全国高文連補助金
調整基金から繰入	0	0	0	
雑収入	12,124	162,361	150,237	利息・全国高文連賛助会費
合 計	27,942,000	27,980,247	38,247	

〔支出の部〕

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要
〔運営費〕	828,000	635,246	△ 192,754	
事務用品費	(内訳) 220,000	(内訳) 160,626	(内訳) △ 59,374	事務用品、写真、事務機器維持費 FAX回線工事等
通信費	350,000	216,420	△ 133,580	電話 郵便 運送料等
分担金	258,000	258,200	200	中国高文連分担金 全国高文連分担金
〔会議費〕	2,031,000	1,423,546	△ 607,454	県内会議 全国会議 事務局旅費 監査旅費
〔事業費〕	21,767,000	20,889,656	△ 877,344	
県総文祭	(内訳) 8,472,000	(内訳) 8,278,154	(内訳) △ 193,846	総合開会式 各部門大会開催費(別紙)
全総文祭	7,782,000	7,449,752	△ 332,248	生徒旅費552万 引率教員旅費128万 運送費65万
自主事業	2,498,000	2,498,000	0	11公演
大会補助金	100,000	100,000	0	高文連(特殊教育) 中国地区高文連会議
専門部会費	1,685,000	1,435,000	△ 250,000	研修費 通信費
印刷費	1,230,000	1,128,750	△ 101,250	高文連集録 高文連会報 県総文祭ポスター 他
〔調整基金〕	1,500,000	1,500,000	0	
〔予備費〕	1,816,000	282,339	△ 1,533,661	事務機器 全総文個人 文芸道場
合 計	27,942,000	24,730,787	△ 3,211,213	

(収入) 27,980,247円 - (支出) 24,730,787円 = (繰越) 3,249,460円

平成12年度 調整基金会計決算書

(単位：円)

前年度末現在高	一般会計から繰入	今年度末残高
9,000,000	1,500,000	10,500,000

上記の通り相違ありません。

平成13年 4月12日

監 事

林

佳

二林

監 事

田 口

勝

海

平成13年度 山口県高等学校文化連盟【事業計画】

月	日	事	業	会 場
4	12 18		会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	11 14 17 22 27	水野与旨久マリンバコンサート 水野与旨久マリンバコンサート 県高校総合文化祭(将棋)	高文連評議員会 全国高等学校文化連盟総会	柳井市 岩国養護学校 宇部工業高校 東京都フロラシオン青山 中国新聞社山口支社
6	11 12 15 16~17 17 23 (下旬)	尺八と琴のコンサート 尺八と琴のコンサート 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭(器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・パトントワリング) 県高校総合文化祭(日本音楽、吟詠剣詩舞) 山口県交響楽団演奏会 平成12年度「高文連」発行 巡回演劇「劇団のんた」 巡回演劇「劇団海峡座」		山口中央高校 豊浦養護学校 宇部市渡辺翁記念会館 宇部市渡辺翁記念会館 下関市文化会館 田部高校 徳佐高校 日置農業高校
7	6		中国地区高文連関係者合同会議	島根県
8	3~7 4 25~26	全国高校総合文化祭 第12回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	全国高等学校文化連盟各専門部会 全国高等学校文化連盟拡大理事会	福岡県 福岡県 東京都 国立劇場
10	27~28 28 31	県高校総合文化祭(演劇) 県高校総合文化祭(囲碁) 巡回演劇「宇部芸術座」 舞台芸術ふれあい教室(バレエ)		宇部市渡辺翁記念会館 萩高校 大嶺高校 宇部中央高校
11	(上旬) 4 10	県高校総合文化祭(放送) 第3回高校生文芸道場中国ブロック大会	第1回高文連理事長会	山口中央高校 ニューメディアプラザ山口 岡山県新見市
12	(中旬) 25~26	平成13年度「高文連会報」発行 第3回高校生文芸道場総合大会		東京都
1	17~18 18~20 25~27	県高校総合文化祭(美術・工芸、書道、写真) 第10回全国高等学校文化連盟将棋新人大会	全国高等学校文化連盟研究大会	千葉県 下関市立美術館 大阪府
2	7 (上旬) (下旬)		全国高等学校文化連盟理事長会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都フロラシオン青山 山口中央高校 山口中央高校
3	(下旬)	第21回器楽管弦楽スプリングコンサート		
<p>【その他】 県高校総合文化祭準備(実行)委員会 総合開会式・音楽関係4部門(宇部西高校) 展示関係3部門(下関西高校) 日本音楽、吟詠剣詩舞部門(早鞆高校) 演劇部門(宇部中央高校) 囲碁部門(萩高校) 放送部門(山口農業高校) 将棋部門(防府商業高校)</p> <p style="text-align: right;">..... 主管校において開催予定</p> <p>各専門部会 部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会 県下各地において開催予定</p>				

平成13年度 山口県高等学校文化連盟会計【予算書】

〔収入の部〕

(単位：円)

区 分	予 算 額	前年度予算額	増減(△減)	摘 要
繰 越 金	3,249,460	4,026,276	△ 776,816	
会 費	17,208,750 (内訳) 17,011,050 67,500 130,200	17,757,200 (内訳) 17,570,000 50,000 137,200	△ 548,450 (内訳) △ 558,950 17,500 7,000	全日制 350円×48,603人 定時制・盲・聾・養 50円×1,350人 学校負担金 100円×1,302学級
補 助 金	6,080,000 (内訳) 1,570,000 300,000 4,210,000	6,146,400 (内訳) 1,472,000 0 4,674,400	△ 66,400 (内訳) 98,000 300,000 △ 464,400	県総文祭県補助金 宇部市補助金 全総文祭県補助金
調整基金から繰入	0	0	0	
雑 収 入	12,790	12,124	666	利息
合 計	26,551,000	27,942,000	△ 1,391,000	

〔支出の部〕

区 分	予 算 額	前年度予算額	増減(△減)	摘 要
〔運 営 費〕	759,000 (内訳) 200,000 300,000 259,000	828,000 (内訳) 220,000 350,000 258,000	△ 69,000 (内訳) △ 20,000 △ 50,000 1,000	事務用品、写真、事務機器維持費等 電話 郵便 運送料等 全国高文連分担金 中国高文連分担金
〔会 議 費〕	1,881,000	2,031,000	△ 150,000	県内会議 全国会議 事務局旅費 監査旅費
〔事 業 費〕	17,066,000 (内訳) 8,326,000 4,331,000 1,494,000 50,000 1,685,000 1,180,000	21,767,000 (内訳) 8,472,000 7,782,000 2,498,000 100,000 1,685,000 1,230,000	△ 4,701,000 (内訳) △ 146,000 △ 3,451,000 △ 1,004,000 △ 50,000 0 △ 50,000	総合開会式 各部門大会開催費(別紙) 生徒旅費233万 引率教員旅費135万 運送費65万 8公演 高文連(特殊教育) 研修費 通信費 高文連集録 高文連会報 県総文祭ポスター 他
〔調 整 基 金〕	2,500,000	1,500,000	1,000,000	
〔予 備 費〕	4,345,000	1,816,000	2,529,000	事務機器 全総文個人 文芸道場 賛助会費
合 計	26,551,000	27,942,000	△ 1,391,000	

平成13年度 調整基金会計予算書

(単位：円)

前年度末現在高	一般会計から繰入	今年度末残高
10,500,000	2,500,000	13,000,000

山口県高等学校文化連盟規約

平成元年4月1日改正

平成2年4月1日改正

平成3年4月1日改正

平成4年4月1日改正

平成6年4月1日改正

平成8年4月1日改正

平成9年4月1日改正

第 1 章 総 則

(名称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市宮島町6番1号山口中央高等学校に置く。

(目的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校による文化行事の開催に関する事業
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する事業
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業

(組織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校並びに高等部を設置している盲学校、聾学校及び養護学校をもって組織する。

2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、次の専門部を置く。

2 演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、放送の各部門とする。

第 2 章 役 員

(役員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- | | |
|---------------|----------------|
| (1) 会 長 1人 | (4) 支部長 7人 |
| (2) 副会長 若干人 | (5) 専門部会長 13人 |
| (3) 評議員 95人以上 | (6) 専門部理事長 13人 |
| (会長及び副会長を含む。) | (7) 監 事 2人 |

(役員を選出)

第8条 役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
- (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
- (3) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。

(4) 監事は、評議員の推薦に基づき、会長が委嘱する。

2 役員の兼任は妨げない。

(役員職務)

第9条 役員の職務は、次のとおりとする。

(1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。

(3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。

(4) 支部・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し、執行する。

(5) 監事は、会計を監査する。

(役員任期)

第10条 役員は高等学校に在職する者とし、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は、前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げるとおりとし、会長が必要に応じて、これを招集する。

(1) 評議員会 (2) 企画運営委員会 (3) 理事長会

2 会議の議長は、会長がこれに当たる。

3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。

4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。

5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したもののみとする。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 規約の制定及び改廃に関する事項 (3) その他連盟の運営に係わる重要事項

(2) 予算及び決算に関する事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 評議員から委任された事項 (3) その他連盟の運営に係わる軽易な事項

(2) 会務の運営及び執行に関する事項

2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。

3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。

4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 企画運営委員会から委任された事項 (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の分担金、県内の高等学校等の生徒の会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第17条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計経理)

第18条 この連盟の会計経理の手続きについては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第5章 事務局

(事務局)

第19条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運営)

第20条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第6章 雑則

第21条 この連盟の規約の施行について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、昭和62年4月1日から施行する。

山口県高等学校文化連盟 諸規程

[会計規定]

昭和62年4月1日制定

平成4年4月1日改正

平成5年4月1日改正

平成8年4月11日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。

第3条 会長は、収支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。

第4条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え、全ての経理内容を記入するものとする。

第5条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。

第6条 各高等学校は、毎年5月31日までに、会費を納入するものとする。

<会費内訳> 各高等学校生徒一人当たり1年に (全日制生徒) 350円
(定時制、盲、聾、養護学校高等部生徒) 50円
各学校負担金 (定時制、盲学校、聾学校、及び養護学校は除く)
学級数×100円

第7条 この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

[事務局規定]

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

- 第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。
- 第2条 事務局に次の職員を置く。
- (1) 事務局長
 - (2) 事務局員 ア 総務係
 イ 庶務係
 ウ 会計係
- 第3条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。
- 第4条 事務局員総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書・調査研究に関する事項を分掌する。
- 第5条 事務局員庶務係は、事務局長の命を受け、庶務に関する事項を分掌する。
- 第6条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。
- 第7条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。
- 第8条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。
- 第9条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

[表彰規定]

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

平成元年4月1日改正

平成2年4月1日改正

平成6年4月1日改正

平成8年4月1日改正

- 第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規程を次のように定める。

(表彰の種類)

- 第2条 本規程に基づく表彰は、次のとおりとする。

- (1) 文化功労賞
- (2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの。

(文化功労賞)

- 第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。
- 第4条 受賞人員は在籍生徒数300名に対し1名の割合を原則とする。
- 第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。
- 第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

- (1) 人格、識見共に優秀と認める者。

(2) 芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。
第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。

第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

(その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの)

(優秀芸術文化賞)

第9条 本賞は、山口県文化連盟加盟校の生徒であって、13部門において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

(功績賞)

第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。

(優秀指導者賞)

第11条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、13部門において、全国大会等で優秀賞を授与され、且つ、長年にわたり部の指導に当たってきた者を対象とする。

第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決定する。本賞の授与は県総文の総合開会式で行うことを原則とする。

附 則

この規定は、昭和62年4月1日から実施する。

昭和62年4月1日制定

昭和63年4月25日改正

平成元年4月1日改正

平成11年4月1日改正

平成13年4月1日改正

[旅費支給基準]

- 1 会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。
- 2 県総文の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。ただし、その際の役員日当は1,700円とし、宿泊費は5,000円(打切り)とする。
- 3 全国高校総文祭に関する旅費は、
引率教員は、山口県旅費規程に準じて支給する。
生徒は、[交通費実費(学割・団体割引)+宿泊費(大会規定料金)×2泊]×1/3とする。
※新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。(ただし県内は除く)
※在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。(ただし県内は除く)
- 4 専門部会長及び支部長が、県高等学校総合文化祭運営協議会(顧問会議、支部長会議等)を開催する場合は、出席者の在籍する各学校でこれを負担するようお願いする。

平成13年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職 名	氏 名	支 部 ・ 専 門 部	所 属 校
会 長 副 会 長 " " " "	西 田 昇 岡 崎 天 隆 川 本 紘 三 縄 田 研 吾		山 口 中 央 高 校 岩 国 高 校 下 関 西 高 校 宇 部 女 子 高 校
支 部 長 " " " " " " " " " "	岡 崎 天 隆 片 山 淳 齊 藤 忠 壽 西 田 昇 晃 重 藤 中 日 出 夫 村 本 昌 範	岩 国 支 部 柳 井 支 部 徳 山 支 部 山 防 支 部 宇 部 支 部 下 関 支 部 長 北 支 部	岩 国 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校 山 口 中 央 高 校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校
専 門 部 会 長 " " " " " " " " " " " " " " " "	西 村 靖 昭 村 中 日 出 夫 藤 本 昌 範 林 智 章 平 原 憲 之 章 橋 原 田 休 部 (休 部) 池 田 通 侃 夫 吉 本 侃 司 末 岡 正 紀 藤 本 昌 範 松 岡 史 二 林 佳 二	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・ バトントワリング部 門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	山 口 県 鴻 城 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校 岩 国 商 業 高 校 佐 波 高 校 大 嶺 高 校 (休 部) 岩 国 工 業 高 校 防 府 高 校 光 高 校 萩 高 校 山 口 農 業 高 校 防 府 商 業 高 校
専 門 部 理 事 長 " " " " " " " " " " " " " " " " " "	村 岡 圭 吾 飯 田 幸 生 有 富 美 子 藤 本 博 途 松 浦 真 実 原 田 江 里 子 (休 部) 平 田 博 英 有 富 由 美 佃 井 幸 憲 青 町 頼 信 弘 木 幸 子 中 敏 子 之	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・ バトントワリング部 門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	山 口 県 鴻 城 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校 岩 国 商 業 高 校 佐 波 高 校 大 嶺 高 校 (休 部) 岩 国 工 業 高 校 防 府 高 校 光 高 校 萩 高 校 山 口 農 業 高 校 防 府 商 業 高 校
監 事 " "	林 佳 二 田 口 勝 海		防 府 商 業 高 校 宇 部 商 業 高 校
事 務 局 長 総 務 務 計 庶 会	角 中 悦 太 郎 柴 崎 正 比 古 大 崎 昌 利 子 豊 川 眞 子		山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定

向川 栄美 作詞

乗松 美紀 作曲



1. てをのばせば ほら きつとだれかが ささえてくれる
 2. よびかければ ほら きつとだれかが こたえてくれる



みーわたせ ーば ほら なかまがいつでもそばにいる きみ
 ころをひらけ ば ほら なかまがいつでもまっている きみ



は ひとりじゃない さあ ある きだ そ う
 は ひとりじゃない さあ は ばた こ う



ほくらのぶんか を つくる ため ー に
 ほくらのぶんか を きずく ため ー に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせば ほら

きつと誰かが支えてくれる

見渡せば ほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ 歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかければ ほら

きつと誰かが応えてくれる

心を開けば ほら

仲間がいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ 翔はばたこう

僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟
「高文連」編集委員

(各 部 門)

合 唱	有 富 美子	(県 立 萩 高 等 学 校)
マーチングバンド バトントワリング	花 村 慈 照	(宇 部 女 子 高 等 学 校)
器 楽 ・ 管 弦 楽	松 永 忠 雄	(県 立 下 関 南 高 等 学 校)
吹 奏 楽	和 田 道 明	(県 立 光 丘 高 等 学 校)
演 劇	三 藤 真 人	(県 立 厚 狭 高 等 学 校)
日 本 音 楽	伊 藤 由 紀 子	(県 立 防 府 高 等 学 校)
美 術 ・ 工 芸	平 田 博 英	(県 立 岩 国 工 業 高 等 学 校)
書 道	古 屋 元 子	(県 立 山 口 高 等 学 校)
写 真	大 濱 進 治	(県 立 宇 部 工 業 高 等 学 校)
囲 碁	安 藤 公 隆	(県 立 下 関 工 業 高 等 学 校)
将 棋	弘 中 敏 之	(県 立 防 府 商 業 高 等 学 校)
放 送	青 木 幸 子	(県 立 山 口 農 業 高 等 学 校)

(事 務 局)

事 務 局 長	角 中 悦 太 郎	(県 立 山 口 中 央 高 等 学 校)
総 務	柴 崎 正 比 古	(")
庶 務	大 黒 昌 子	(")
会 計	豊 川 眞 利 子	(")

平成12年度
山口県高等学校文化連盟集録
「 高 文 連 」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753-0043 山口市宮島町 6 - 1
山口県立山口中央高等学校内
電話 083-932-0818
FAX 083-932-0813

表紙デザイン 芦原由美 (山口中央高校2年)

